

令和7年度市民意識調査 報告書

令和7年10月

行方市

調査の概要

1. 趣旨

市の現状やまちづくりの取り組みに対する満足度、市民が重要と感じている施策や課題、社会情勢から重点的な取り組みが必要な課題など、市民の市政に関する満足度等の市民意識から政策的課題を把握し、市民ニーズを的確に市政に反映するために実施するもの。

2. 調査の方法

(1) 調査時期

- ・令和7年7月1日～7月31日

(2) 調査対象

- ・行方市在住の満18歳以上の市民

(3) 調査方法

- ・インターネット調査（Google フォーム）、（一部、紙調査）

(4) 回答結果

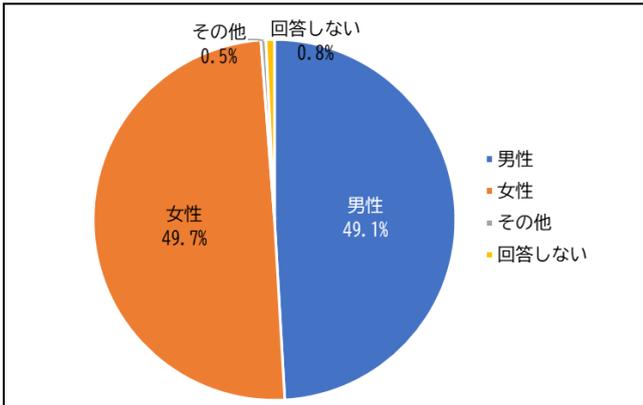
対象数	回答件数（回収率）
令和7年度 市民：31,084人（R7.7.1現在、 回答対象とならない17歳以下も含む）	664件 Web：590件、紙74件
令和6年度 市民31,710人（R6.7.1現在、 回答対象とならない17歳以下も含む）	487件
令和5年度 市民32,152人（R5.11.1現在、 回答対象とならない17歳以下も含む）	468件

3. 調査項目

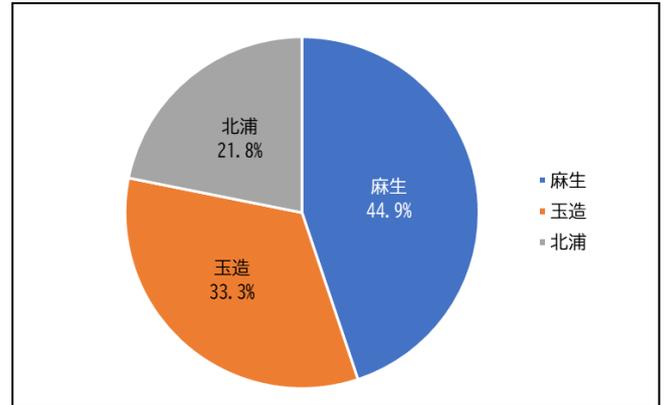
- ①市政への関心・市への愛着・幸福度について
- ②暮らしやすさについて
- ③まちづくりへの満足度
- ④健康・福祉について
- ⑤生活環境について
- ⑥教育・文化について
- ⑦産業について
- ⑧定住・移住の促進について
- ⑨行政サービスについて

4. 回答者属性

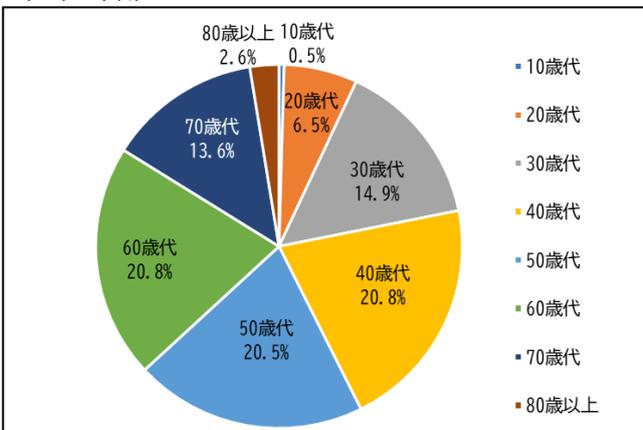
(1) 性別



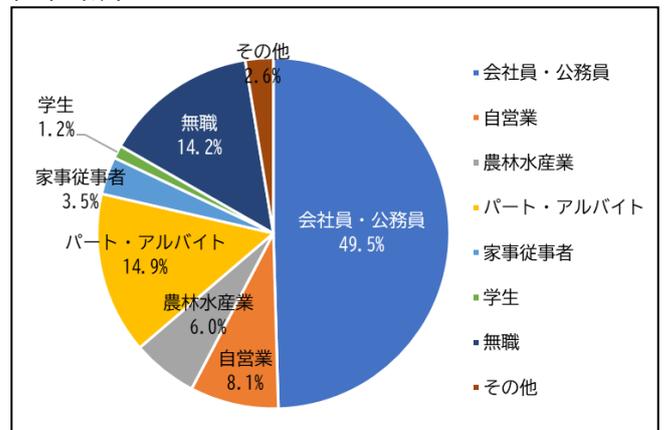
(2) 地区



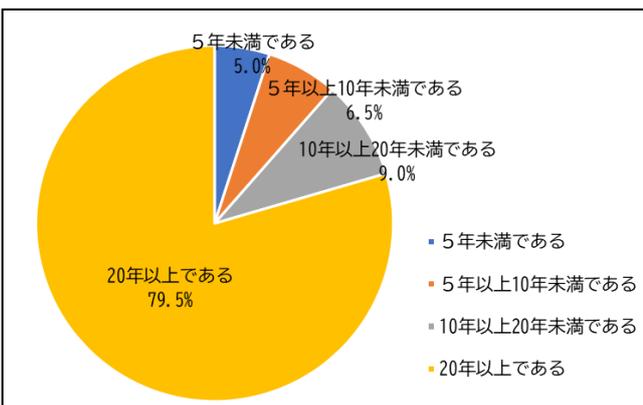
(3) 年齢



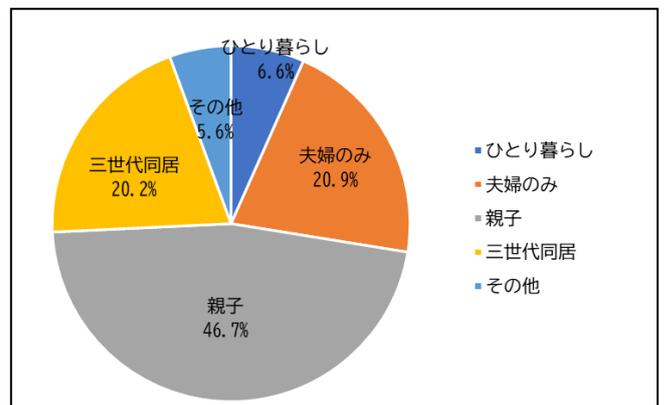
(4) 職業



(5) 居住年数

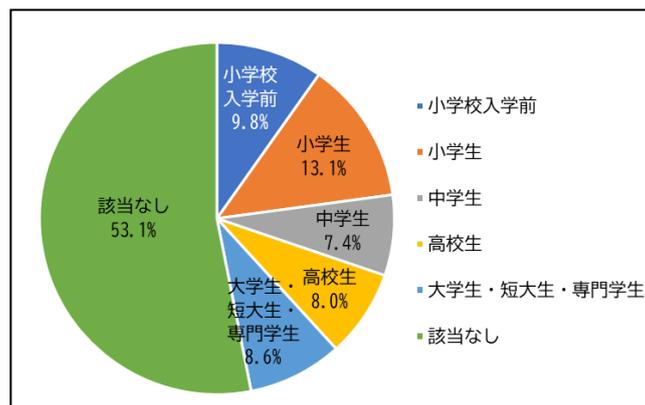


(6) 世帯構成



(7) 子供の就学状況

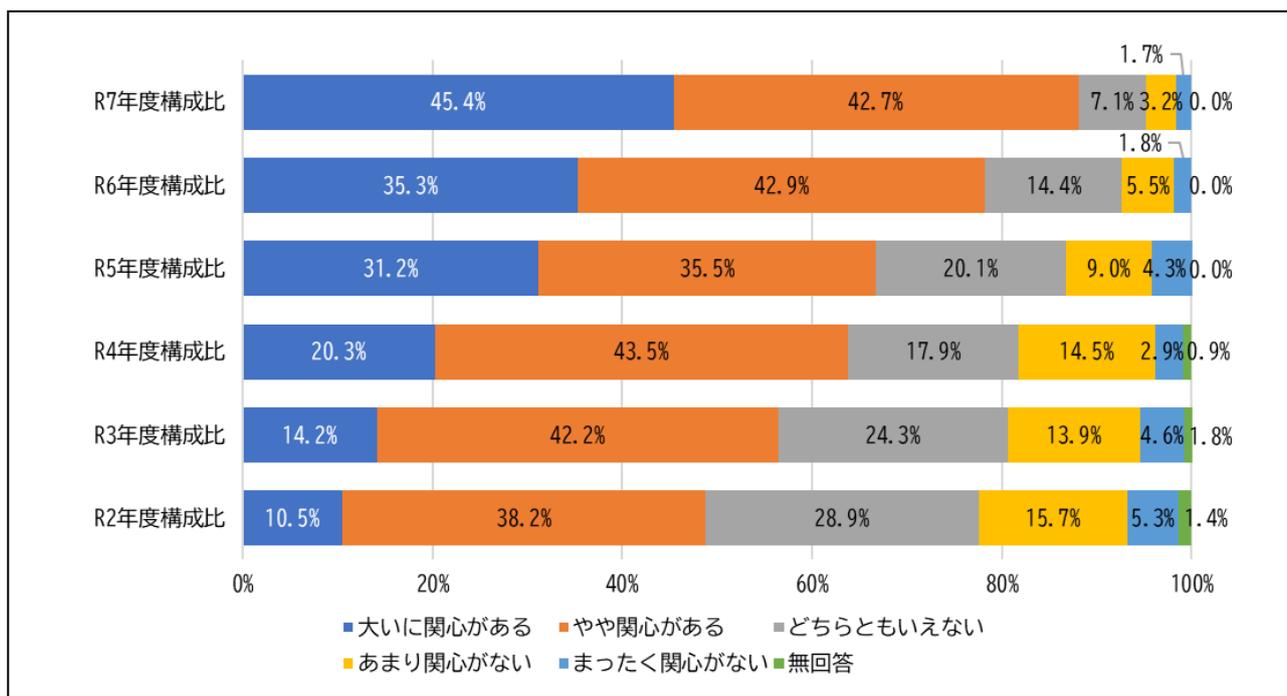
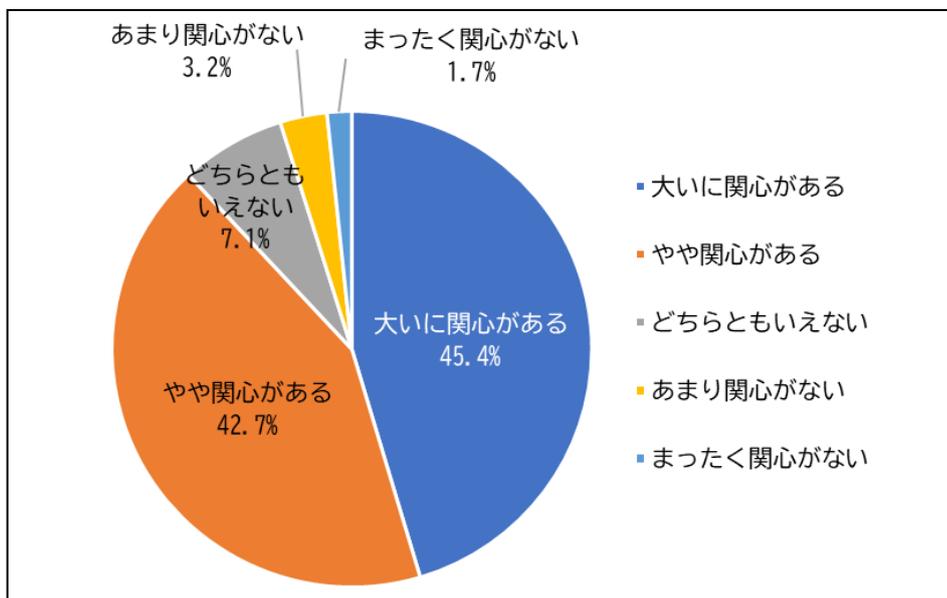
【複数選択可】



結果

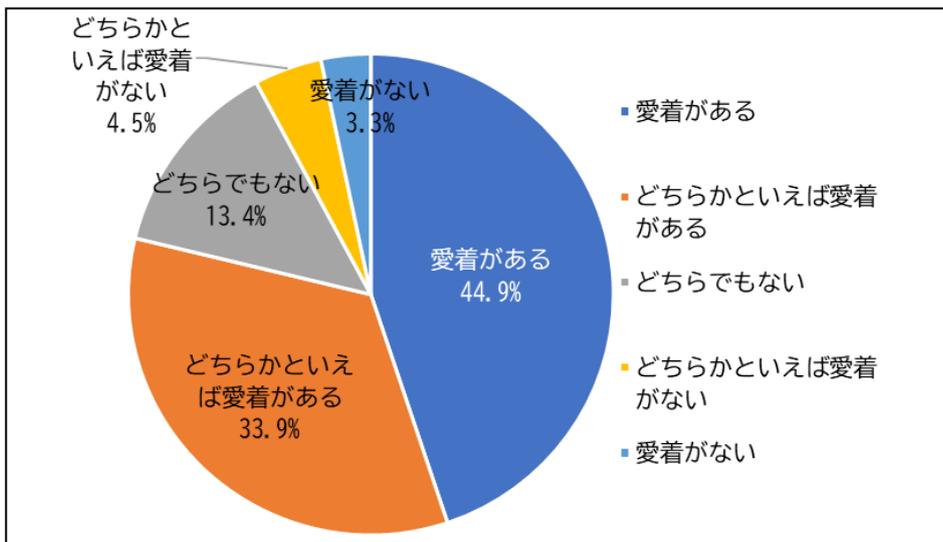
1. 市政への関心・市への愛着・幸福度について

問1 行方市の市政に関心はありますか。(回答を1つ)



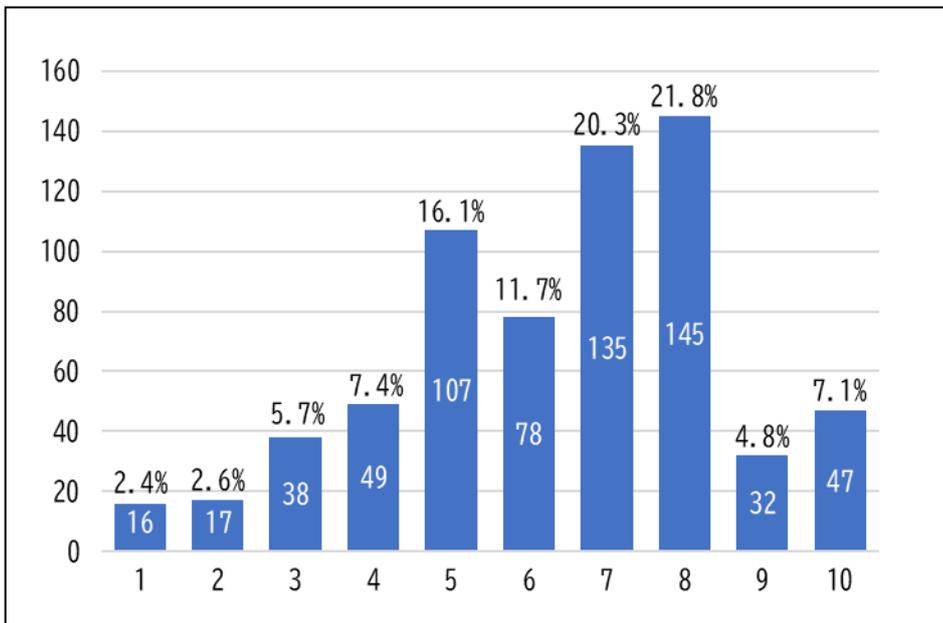
- 最多は「大いに関心がある」で、初めて最多となった。
- 「大いに関心がある」と「やや関心がある」の合計は88.1%で前年より約10%増加しており、市政への関心が高まってきていることが分かる。
- 年齢別の「大いに関心がある」と「やや関心がある」の合計は、20歳代が80%未満、30～50歳代が80%台、60歳代以上が90%と年齢層が高くなるにつれ、関心度が高くなっている。
- 職業別の「大いに関心がある」と「やや関心がある」の合計は、農林水産業が95.0%と特に高いが、家事従事者は78.3%と8割を下回る。

問2 行方市に愛着を持っていますか。(回答を1つ)



- 「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」の合計は78.7%、「愛着がない」と「どちらかといえば愛着がない」の合計は7.8%である。
- 居住年数による傾向として、居住5年未満は愛着が高いものの5～10年でやや下がる傾向がある。その後は10～20年、20年以上になるにつれて再び愛着が高くなっていく傾向がみられる。

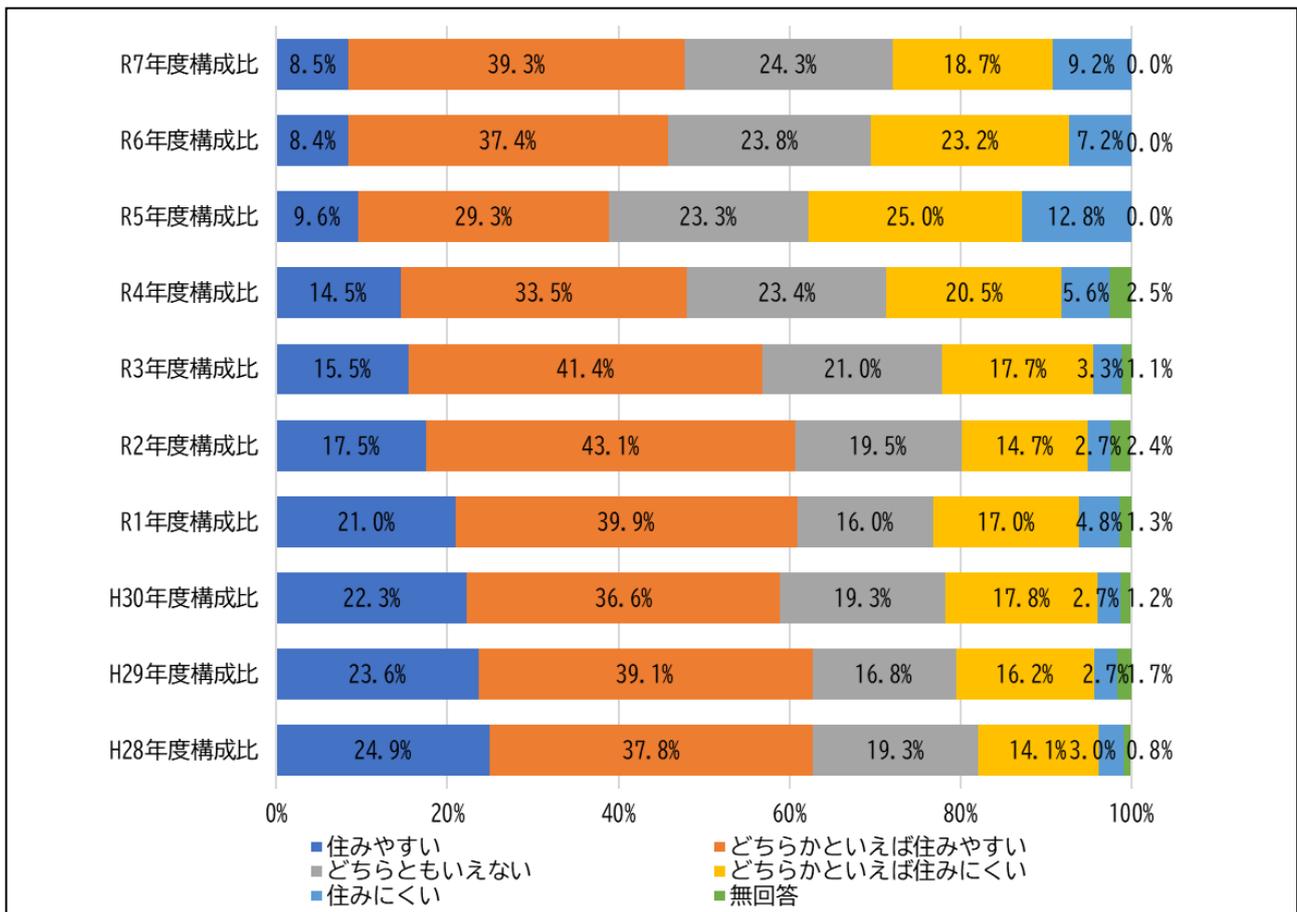
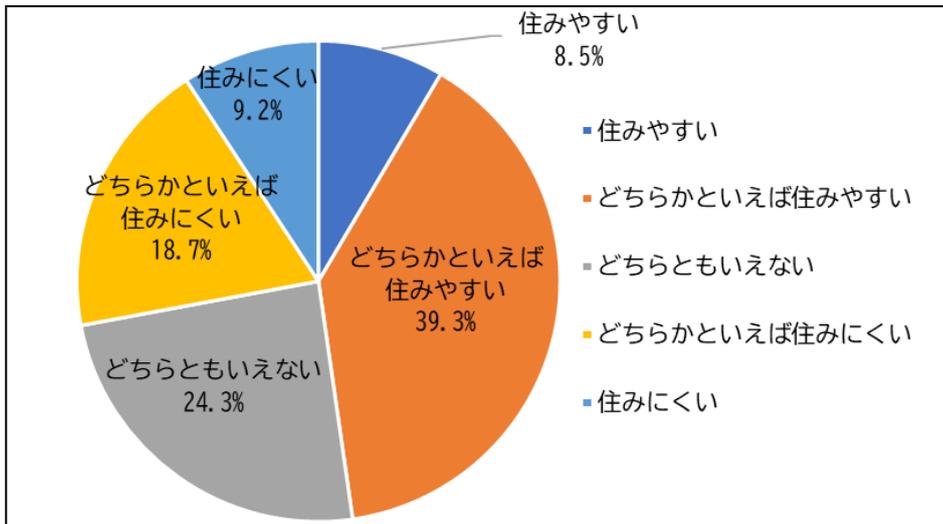
問3 現在、どのくらいの幸福を感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点として、あてはまる点数をお選びください。(回答を1つ)



- 幸福度の平均は、6.4点で、国の幸福度の平均値6.4点、県の平均6.3点(デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標」より)と類似した結果となった。
- 8点と7点の回答率で4割を占めており、平均点は6.4点である。
- 男性は7点と回答した人が21.8%、女性は8点と回答した人が24.5%でそれぞれ最多である。
- 年齢別では若年層ほど平均点が低くなる傾向があり、20歳代は5.8点、80歳代は7.4点である。

2. 暮らしやすさについて

問4 行方市の「住み心地」についてどう感じていますか。(回答を1つ)

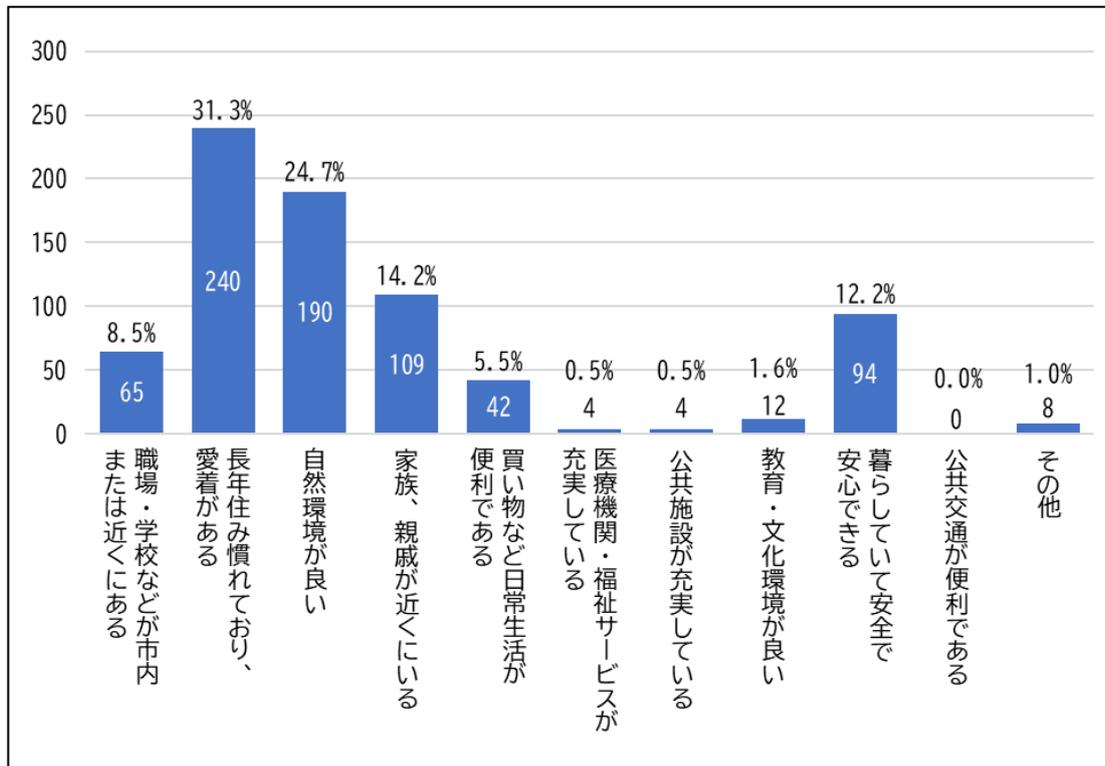


○「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」の合計は47.8%で、昨年度より増加した。「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」の合計は28.0%で、昨年度より減少したものの、「住みにくい」の割合がやや増加した。

○年齢別では若年層ほど「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の合計が低くなる傾向があり、最低は20歳代の39.5%、最高は80歳代の76.5%である。

○職業別では、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」の合計が、「会社員・公務員」、「自営業」、「農林水産業」、「パート・アルバイト」でそれぞれ30%前後であり、「家事従業者」13.0%、「学生」12.5%、「無職」22.3%と比べて高い傾向を示している。

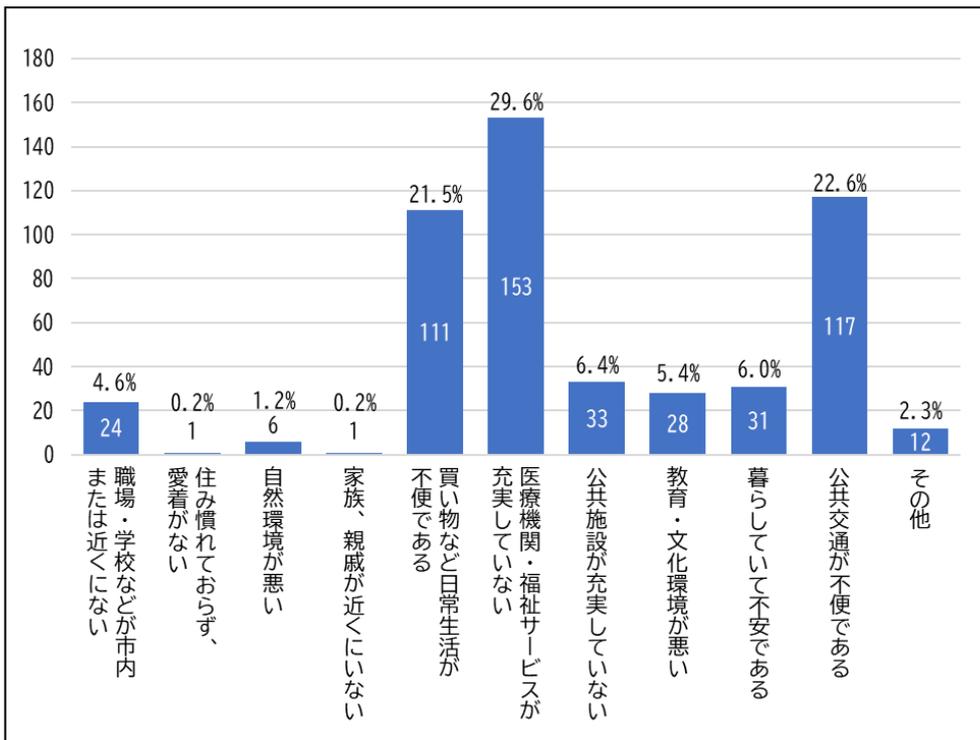
問5 住みやすいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで) 【問4で『1・2』を選んだ方のみ回答】



○住みやすい理由では、「長年住み慣れており、愛着がある」、「自然環境が良い」の順に多い。

○居住年数別では、居住5年未満、5～10年、10～20年では「自然環境が良い」、20年以上では「長年住み慣れており、愛着がある」がそれぞれ最多である。

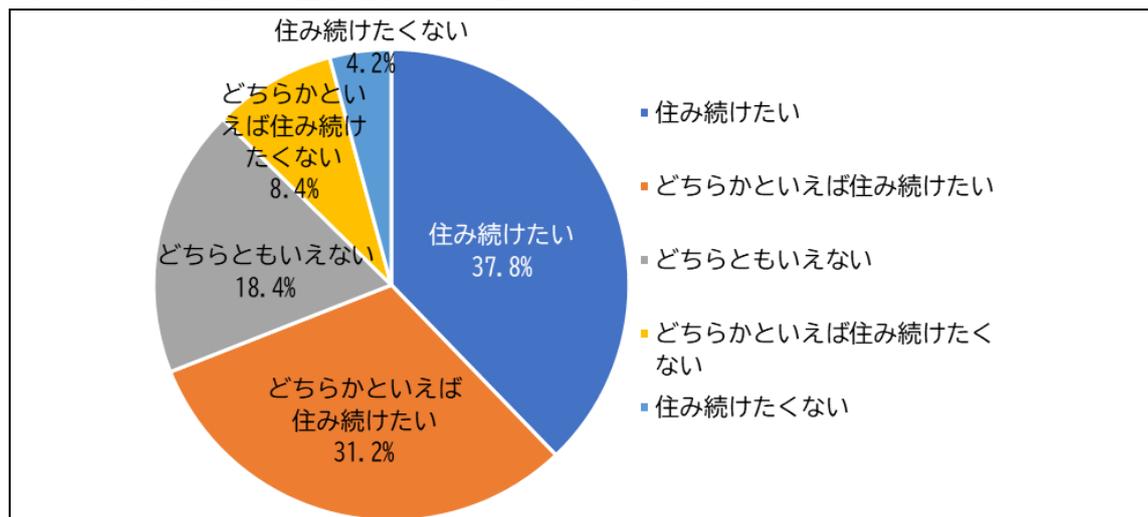
問6 住みにくいと感じる理由は何ですか。(回答を3つまで) 【問4で『4・5』を選んだ方のみ回答】



○住みにくい理由では、「医療機関・福祉サービスが充実していない」、「公共交通が不便である」、「買い物などの日常生活が不便である」の順に多い。

○年齢別の最多は、20歳代は「買い物など日常生活が不便である」と「公共交通が不便である」で、30歳代以上は「医療機関・福祉サービスが充実していない」である。

問7 今後も行方市に住み続けたいと思いますか。(回答を1つ)

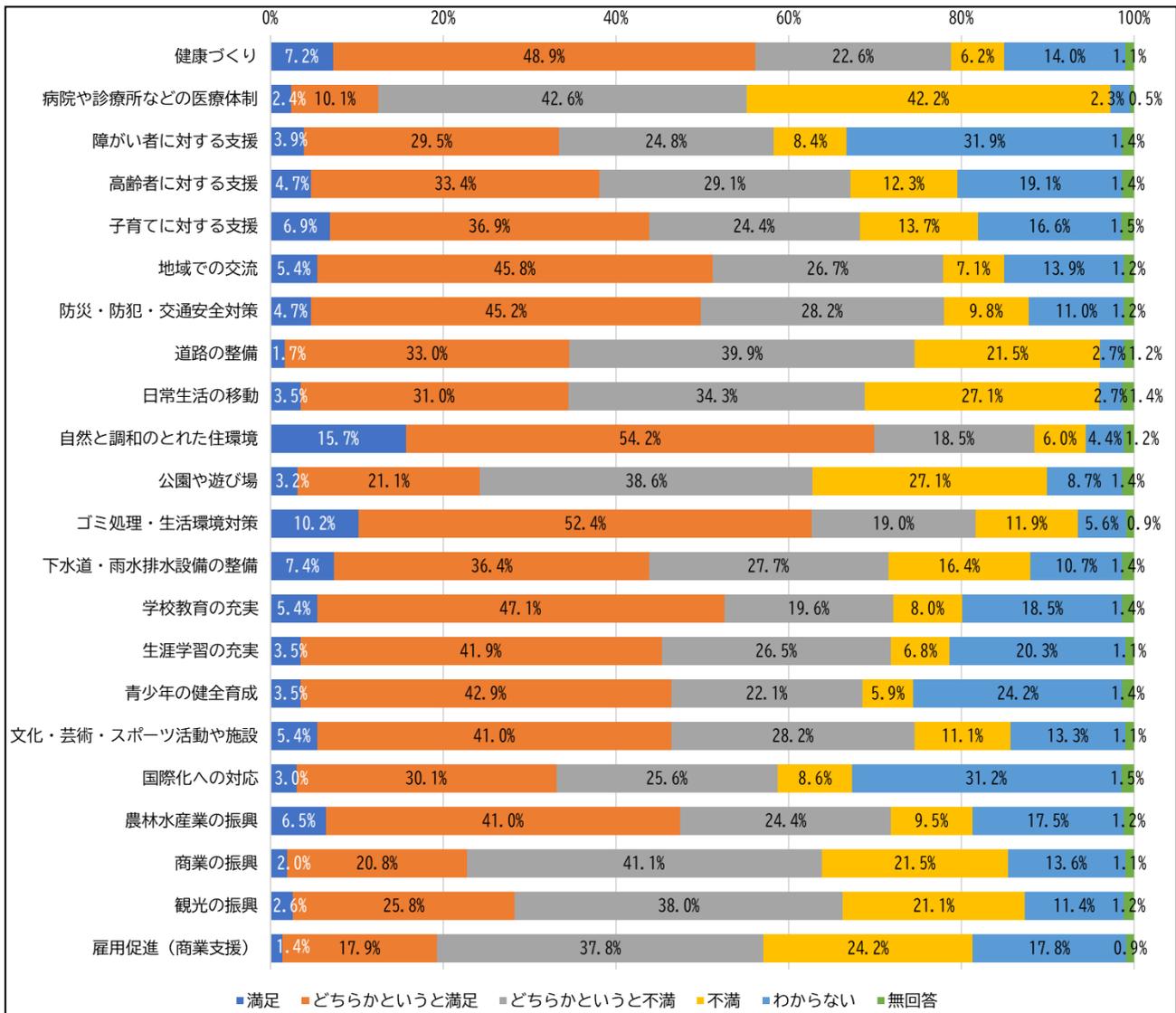


○「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計が69.0%、「どちらかといえば住み続けたくない」、「住み続けたくない」の合計が12.6%である。

○年齢別の特徴では、20歳代の住み続ける意欲が特に低くなっており、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」の合計が48.8%で唯一50%を割り、「どちらかといえば住み続けたくない」、「住み続けたくない」の合計が27.9%で唯一20%を超えている。

3. まちづくりへの満足度

問8 普段の生活の中で、次の項目の取り組みについて、どの程度満足していますか。直接関係がない項目についても、お答えください。(項目ごとに回答を1つ)



【満足度が高い分野】(満足系の回答： 満足+どちらかという満足)

「自然と調和の取れた住環境」70.0%

「ゴミ処理・生活環境対策」62.7% 「健康づくり」56.3%

【不満度が高い分野】(不満系の回答： どちらかという不満+不満)

「病院や診療所などの医療体制」84.9% 「公園や遊び場」65.8% 「商業の振興」62.7%

①健康づくり

満足系の回答は56.3%で3番目に高い。

②病院や診療所などの医療体制

満足系の回答は12.5%で最も低く、不満系回答は年齢別の40歳代で89.1%に達する。

③障がい者に対する支援

満足系の回答は33.5%である。

④高齢者に対する支援

満足系の回答は 38.1%である。

⑤子育てに対する支援

満足系の回答は 43.9%で、地区別で玉造地区の 49.5%と麻生地区の 38.9%の差が大きい。また、性別では男性は 39.1%、女性は 49.4%であり、性別による差が全項目中で最大である。

⑥地域での交流

満足系の回答は 51.3%である。

⑦防災・防犯・交通安全対策

満足系の回答は 49.9%である。

⑧道路の整備

満足系の回答は 34.7%で、玉造地区 40.5%、北浦地区 39.3%と比べて麻生地区が 28.2%と低い。

⑨日常生活の移動

満足系の回答は 34.5%である。

⑩自然と調和のとれた住環境

満足系の回答は 70.0%で最も高い。

⑪公園や遊び場

満足系の回答は 24.3%である。

⑫ゴミ処理・生活環境（騒音・悪臭など）対策

満足系の回答は 62.6%で 2 番目に高い。

⑬下水道・雨水排水設備の整備

満足系の回答は 43.9%で、玉造地区 50.0%、麻生地区 45.6%と比べて北浦地区が 31.0%と低い。

⑭学校教育の充実

満足系の回答は 52.6%である。

⑮生涯学習の充実

満足系の回答は 45.4%である。

⑯青少年の健全育成

満足系の回答は 46.5%である。

⑰文化・芸術・スポーツ活動や施設

満足系の回答は 46.5%である。

⑱国際化への対応（外国人へのサポート）

満足系の回答は 33.2%である。

⑲農林水産業の振興

満足系の回答は 47.5%で、年齢別では 20 歳代の 62.8%や 50 歳代の 54.4%が高い。

⑳商業の振興

満足系の回答は 22.8%で、年齢層が高くなるにつれて満足系の回答率が低くなる傾向がある。

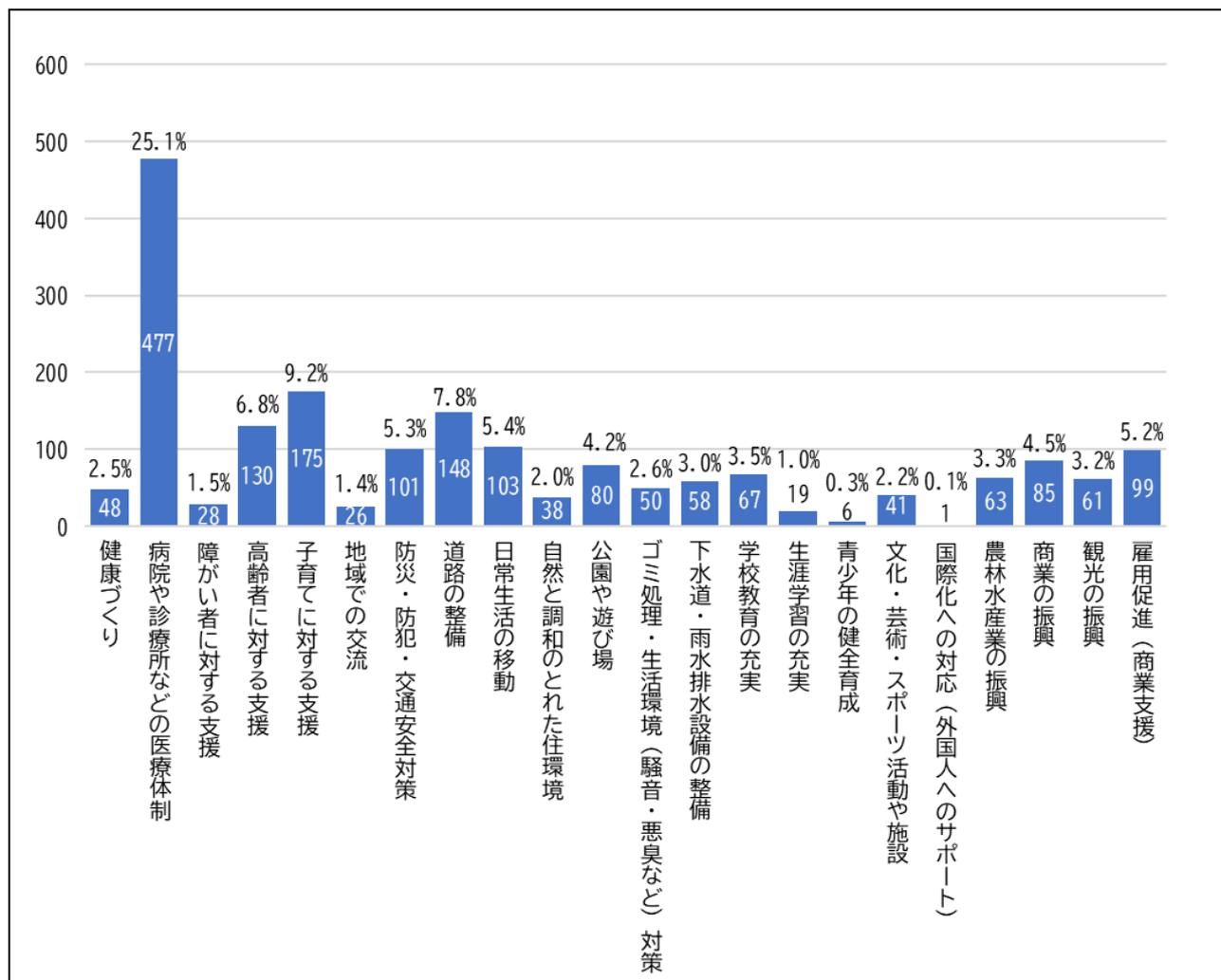
㉑観光の振興

満足系の回答は 28.4%で、玉造地区 36.8%と比べて北浦地区 24.8%、麻生地区が 23.8%と低い。

㉒雇用促進（商業支援）

満足系の回答は 19.3%で、玉造地区 25.9%と比べて麻生地区 16.1%、北浦地区が 15.9%と低い。

問9 問8の取り組みの中で、あなたが市に求める特に重要な取り組みは何ですか。（回答を3つまで）



○重要度が高い分野は「病院や診療所などの医療体制」が突出しており、次いで「子育てに対する支援」、「道路の整備」の順に多い。

○年齢別重要度では、20歳代以上の各世代とも「病院や診療所などの医療体制」が最多である。

2番目に多い項目は、

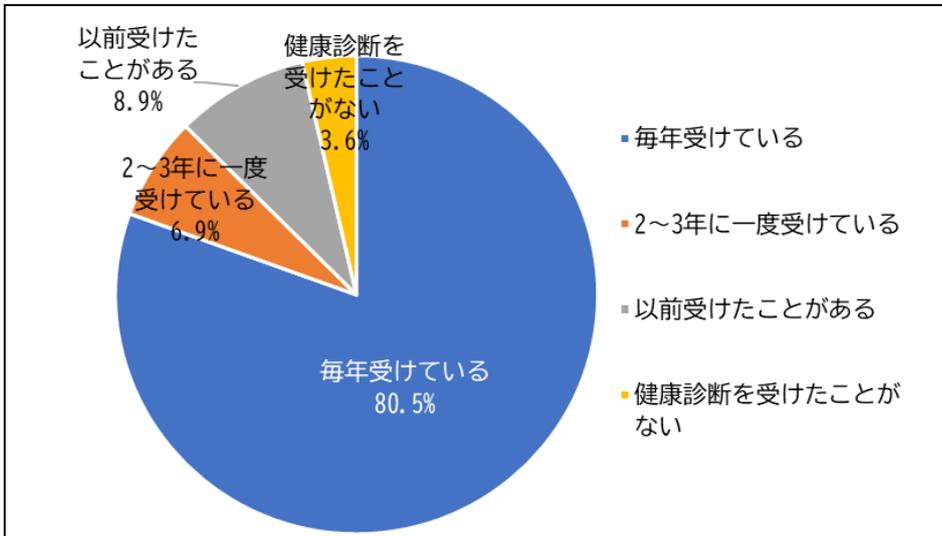
20歳代～40歳代の各世代は「子育てに対する支援」、

50歳代は「道路の整備」、

60歳代～80歳代の各世代は、「高齢者に対する支援」である。

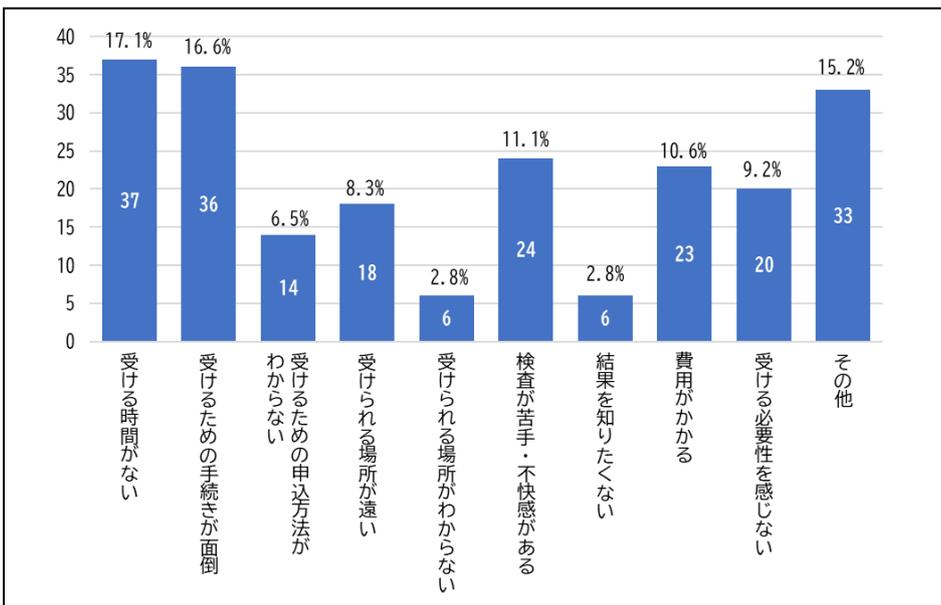
4. 健康・福祉について

問 10 健康診断を受けていますか。(回答を1つ)



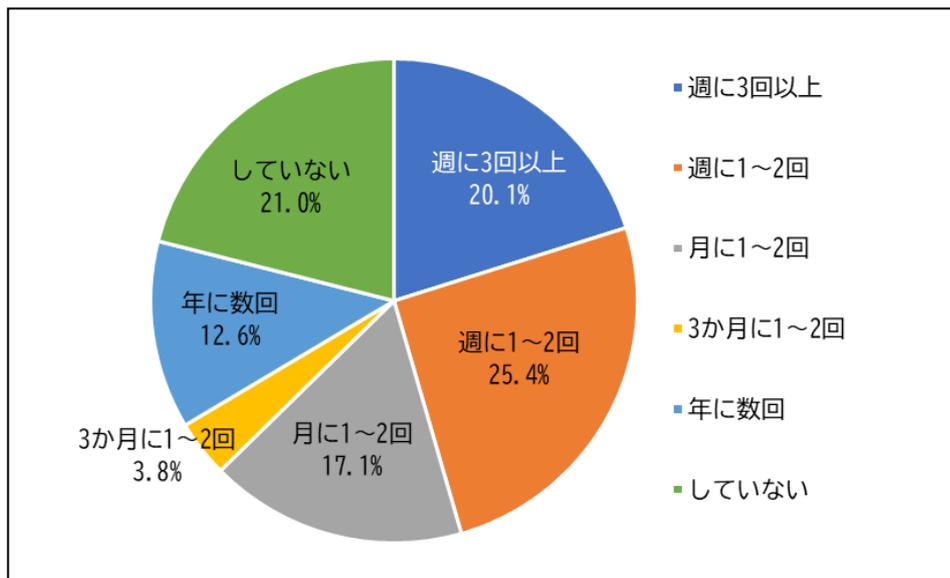
- 「毎年受けている」が8割を占め、「2～3年に一度受けている」を含めると87.4%が定期的に健康診断を受けている。
- 年齢別では、20歳代の「健康診断を受けたことがない」が11.6%で唯一10%を超える。

問 11 健康診断を毎年受けない理由は何ですか。(回答を3つまで) 【問10で『2・3・4』を選んだ方のみ回答】



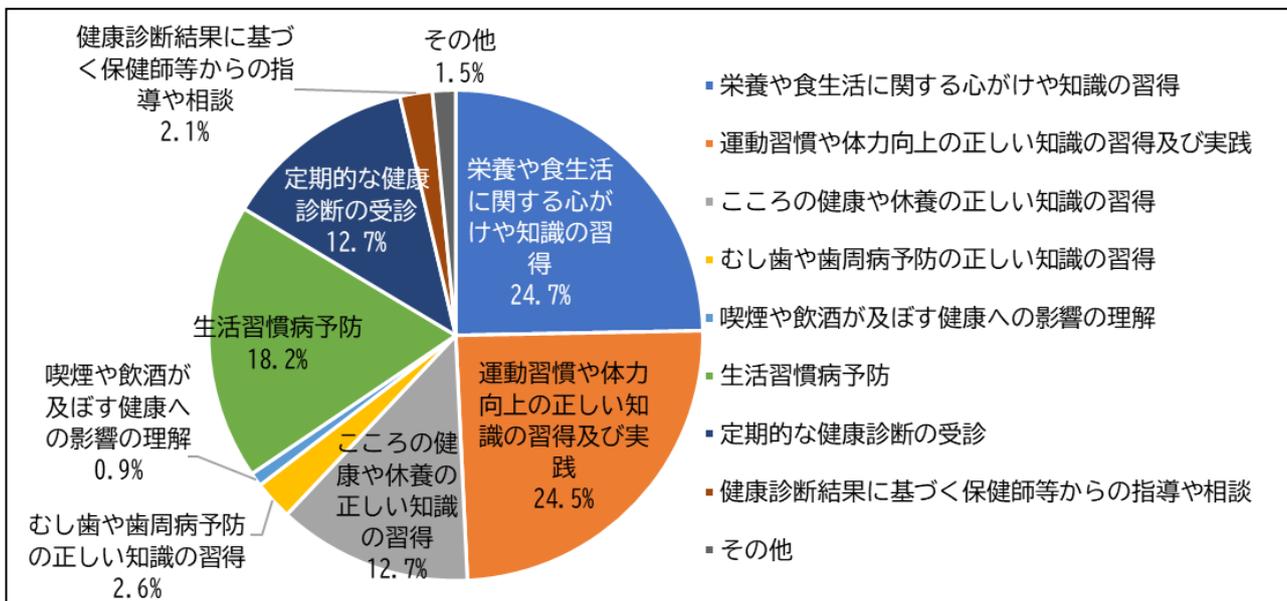
- 「受ける時間がない」や「受けるための手続きが面倒」が多い。
- 年齢別では、20歳代～50歳代では「受ける時間がない」が最多で、20歳代と30歳代は「費用がかかる」が次ぐ。60歳代は、「受けるための手続きが面倒」が最多で、70歳代と80歳代は「受ける必要性を感じない」や「受けるための手続きが面倒」が多い。
- その他の意見では、定期的通院や受診をしていることから健康診断を受けていないとの回答が多く見られる。

問 12 この1年間にスポーツや運動をしましたか。(回答を1つ) ※体を動かすことを目的とした軽い運動(ウォーキング(散歩)・サイクリング・ヨガ・ダンス・体操等)も含まれます。



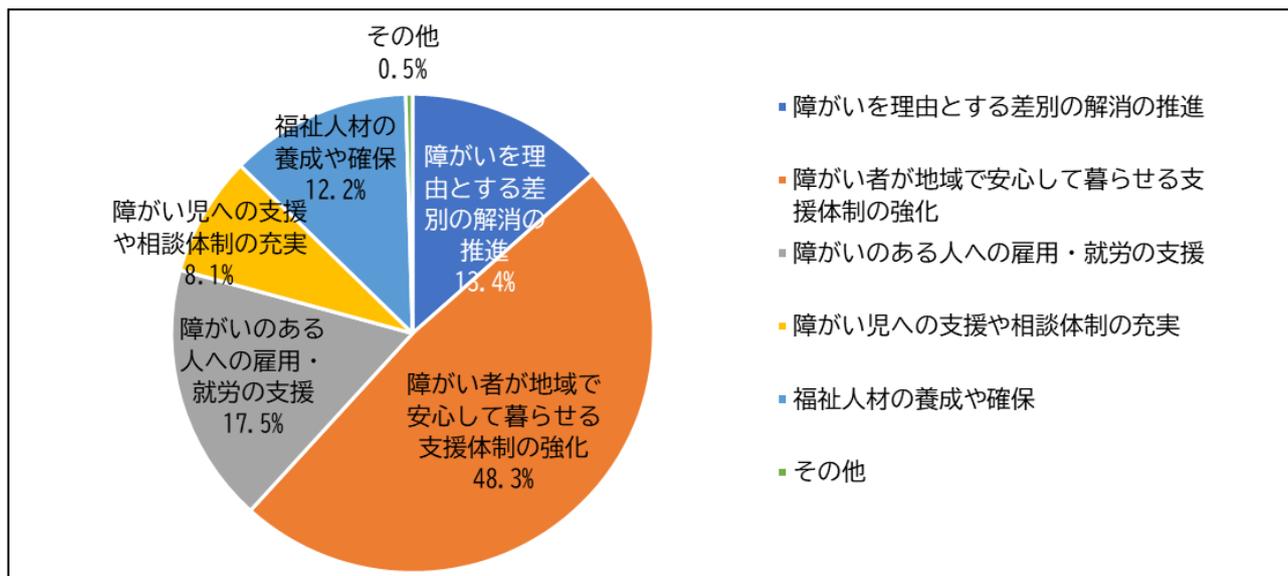
- 「週に1~2回」が25.4%、「していない」が21.0%、「週に3回以上」が20.1%の順に高く、週に1回以上運動している市民は45.5%である。
- 年齢別では、20歳代、40歳代、50歳代、60歳代は「週に1~2回」、70歳代と80歳代は「週に3回以上」が最も高い。30歳代は「していない」が最も高い。
- 職業別では、自営業、農林水産業、パート・アルバイトでは「していない」が最も高い。

問 13 健康づくりについて、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



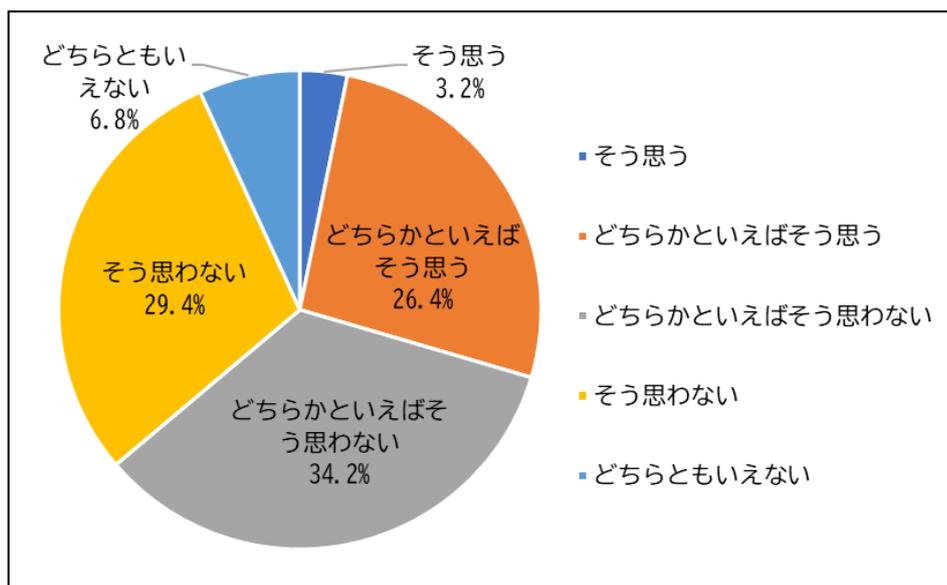
- 「栄養や食生活に関する心がけや知識の習得」、「運動習慣や体力向上の正しい知識の習得及び実践」はほぼ同率で高く、「生活習慣病予防」が次いで高い。

問 14 障がい者福祉について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



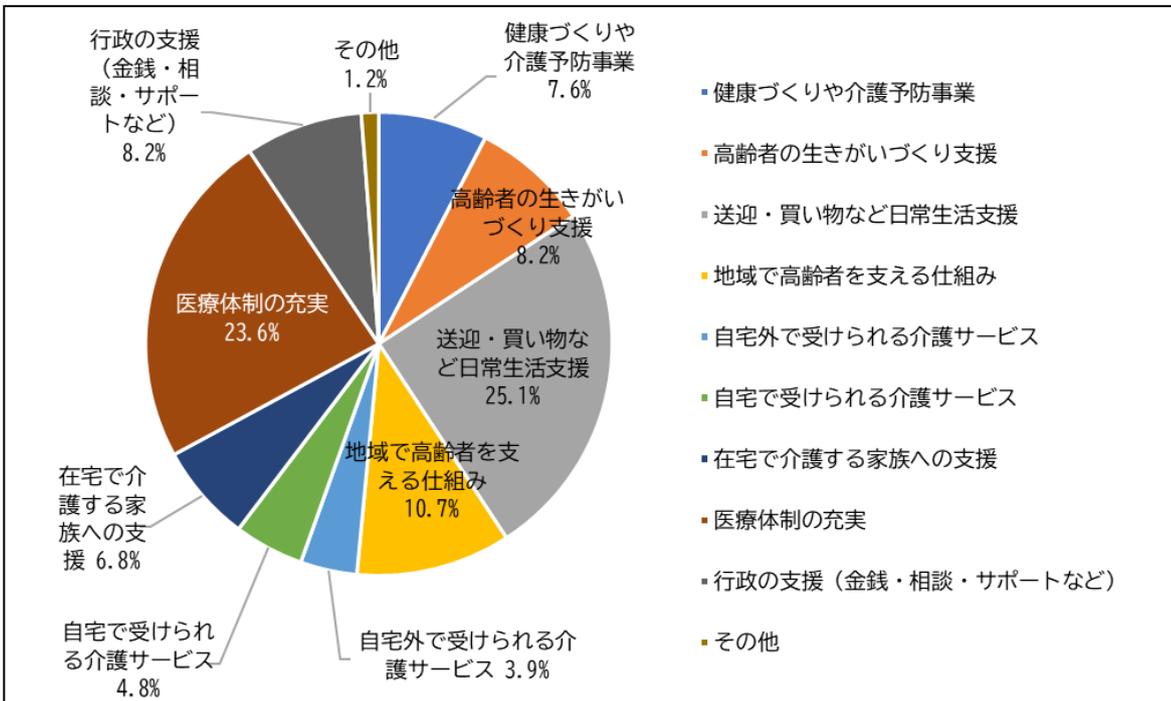
○「障がい者が地域で安心して暮らせる支援体制の強化」は48.3%と特に高い。次いで、「障がいのある人への雇用・就労の支援」、「障がい者を理由とする差別の解消の推進」の順に高い。

問 15 行方市は高齢者が安心して住み続けられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



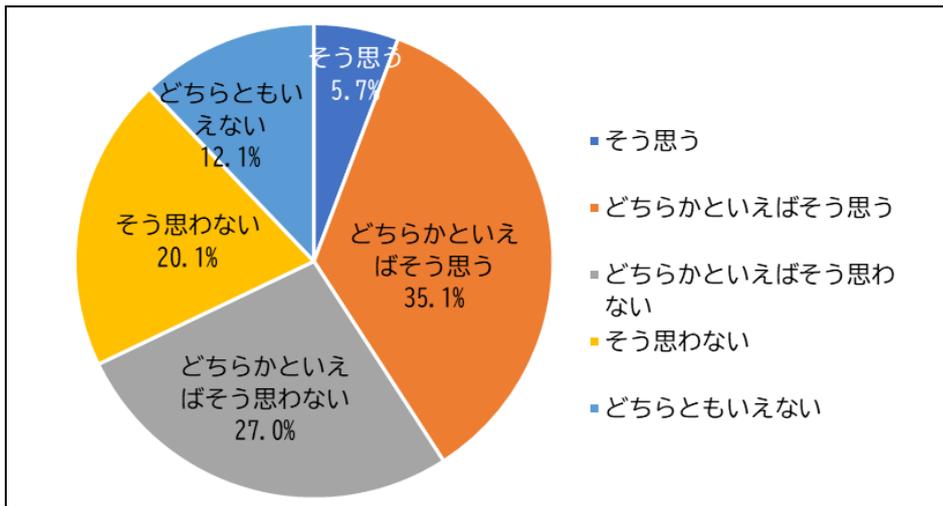
○「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は29.6%、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計は63.6%である。
 ○年齢別では20歳代以上の各世代とも、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計が50%を超えている。

問 16 高齢者が安心して住み続けられるための取り組みとして、最も重要なものを選んでください。
(回答を1つ)



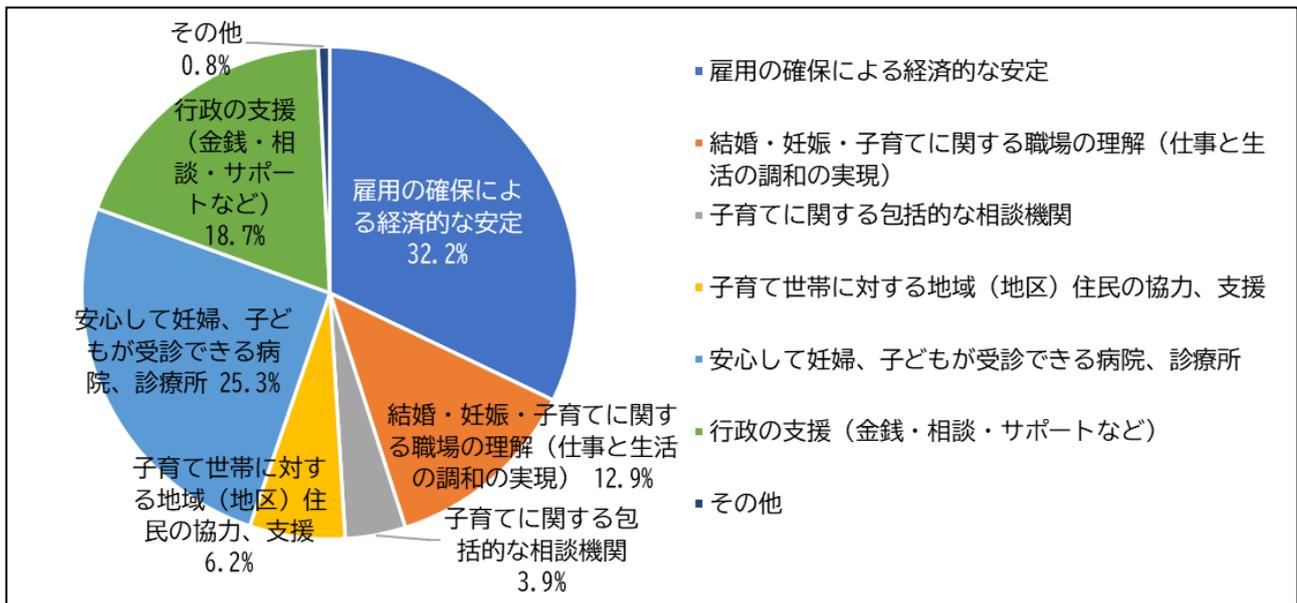
- 「送迎・買い物など日常生活支援」、「医療体制の充実」がともに特に高い。次いで、「地域で高齢者を支える仕組み」が高い。
- 年齢別では、50歳代～70歳代では、「医療体制の充実」、80歳代は「高齢者の生きがいづくり支援」が最も高い。
- 「医療体制の充実」は20歳代～40歳代でも2番目に高い。
- 「送迎・買い物など日常生活支援」は、20歳代～40歳代では最も高く、50歳代と60歳代では2番目に高い。
- 地区別の上位2つを見ると項目は共通しているが、順位や割合に差がある。
 - 麻生地区：「医療体制の充実」が最多
 - 【1位】医療体制の充実(25.3%)
 - 【2位】送迎・買い物など日常生活支援(24.7%)
 - 北浦地区：「医療体制の充実」が最多
 - 【1位】医療体制の充実(27.6%)
 - 【2位】送迎・買い物など日常生活支援(25.5%)
 - 玉造地区：「送迎・買い物など日常生活支援」が1位で、「医療体制の充実」の割合が他地区より低い
 - 【1位】送迎・買い物など日常生活支援(25.3%)
 - 【2位】医療体制の充実(18.6%)

問 17 行方市は安心して子どもを産み育てられる環境が整っていると思いますか。(回答を1つ)



- 「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は40.8%、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」の合計は47.1%である。
- 性別では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は、男性が36.0%、女性が46.4%と10%の差があり、問8の子育てに対する支援の満足と類似する結果である。

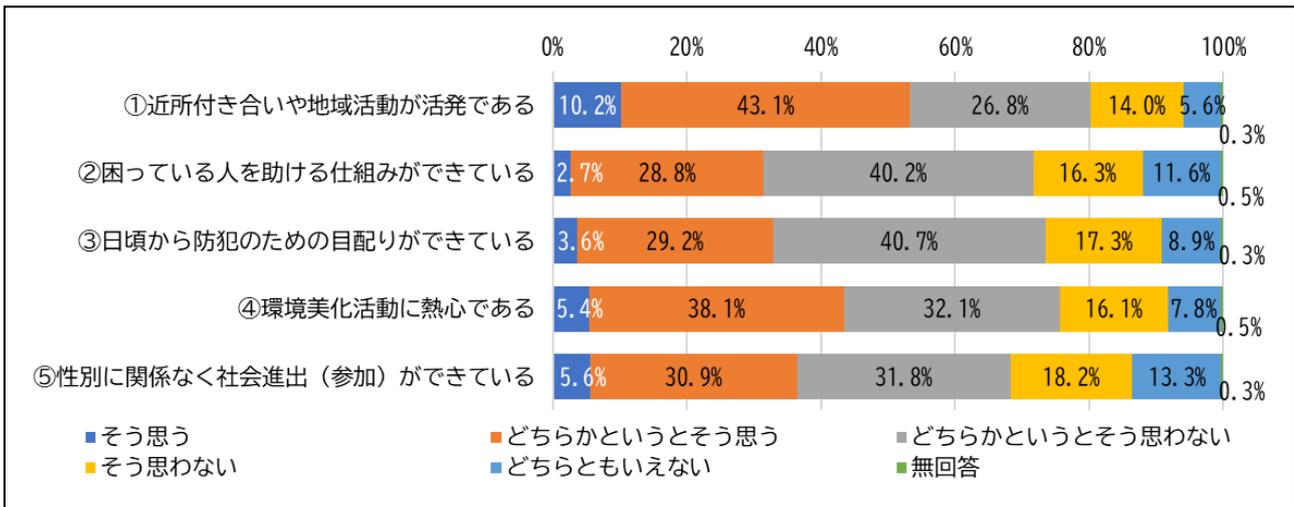
問 18 安心して結婚・妊娠・子育てをするために、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



- 「雇用の確保による経済的な安定」、「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」、「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」の順に高い。
- 「雇用の確保による経済的な安定」は40歳代以上の各世代で最も高いが、20歳代と30歳代では20%未満でそれぞれ3位以下である。
- 「安心して妊婦、子どもが受診できる病院、診療所」は、20歳代~40歳代の各世代で最も高く(30歳代と40歳代は1位タイ)、50歳代以上の各世代ではそれぞれ2番目に高い。
- 「行政の支援(金銭・相談・サポートなど)」は20歳代~50歳代の各世代でそれぞれ1位タイ~3位までの高さとなっている。

5. 生活環境について

問 19 住んでいる地区に対して、次の項目についてどう感じていますか。(項目ごとに回答を1つ)



○「そう思う」、「どちらかというと思う」の合計が比較的高い割合であるものは「近所付き合いや地域活動が活発である」である。

○「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の合計が高いのは、「困っている人を助ける仕組みができています」と「日頃から防犯のための目配りができています」である。

① 近所付き合いや地域活動が活発である

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が、年齢が高くなるにつれ低くなる傾向があり、20歳代では67.4%であるが、80歳代では35.3%である。

② 困っている人を助ける仕組みができています

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が、20歳代～50歳代では30%台であるが、60歳代以降は、年齢とともに下がっていく傾向がみられる。

③ 日頃から防犯のための目配りができています

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が、麻生地区35.6%に比べて北浦地区では26.9%と低い。

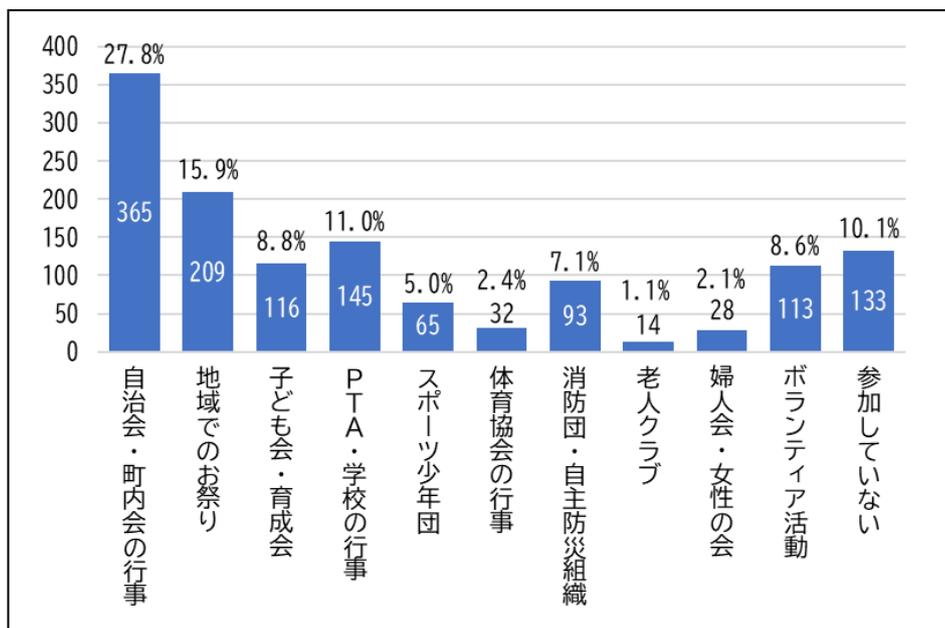
④ 環境美化活動に熱心である

「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が、玉造地区50.5%に比べて麻生地区では39.6%と低い。

⑤ 性別に関係なく社会進出(参加)ができています

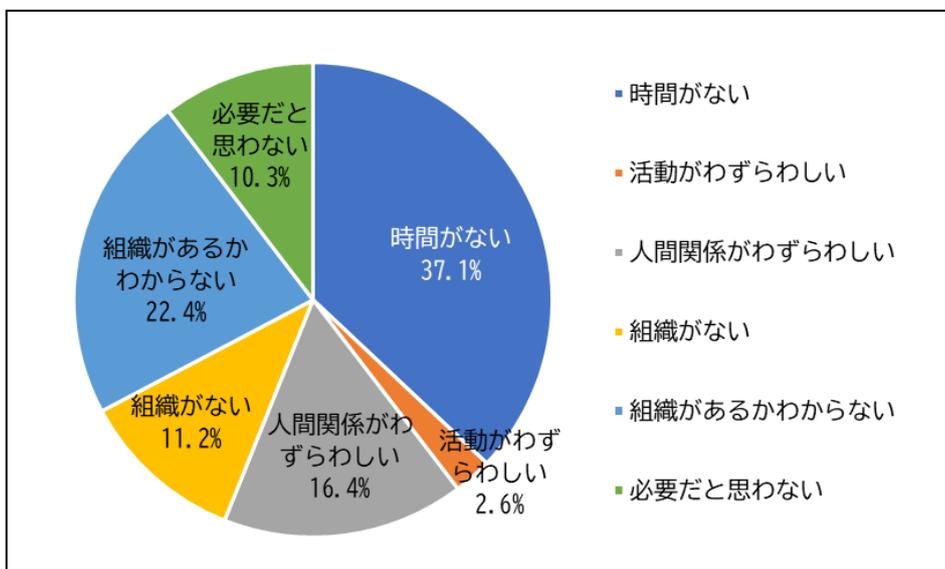
「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計が、男性39.7%、女性33.6%である。「どちらともいえない」は男性9.2%、女性17.6%である。

問 20 過去5年間、地域でどのような活動に参加していますか。(複数回答)



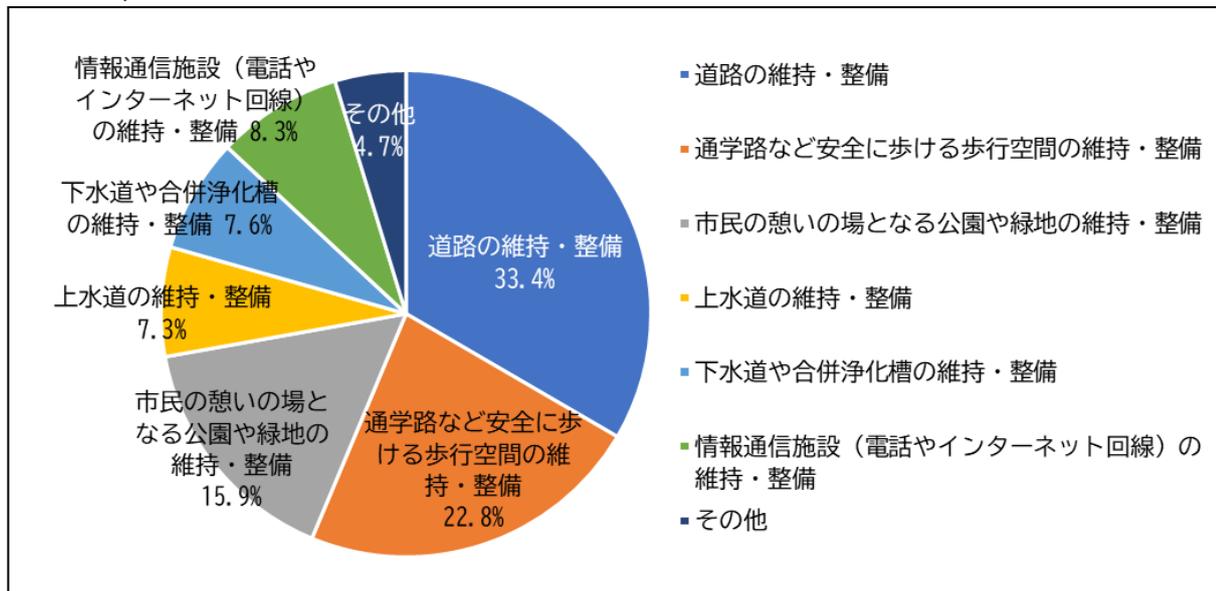
- 「自治体・町内会の行事」、「地域でのお祭り」、「PTA・学校の行事」の順に多い。
- 地区別も上位2位までは全体結果と同様で、麻生地区と北浦地区では3位も全体結果と同様であるが、玉造地区の3位は「参加していない」である。

問 21 活動に参加していない理由は何ですか。(回答を1つ)【問20で『11』を選んだ方のみ回答】



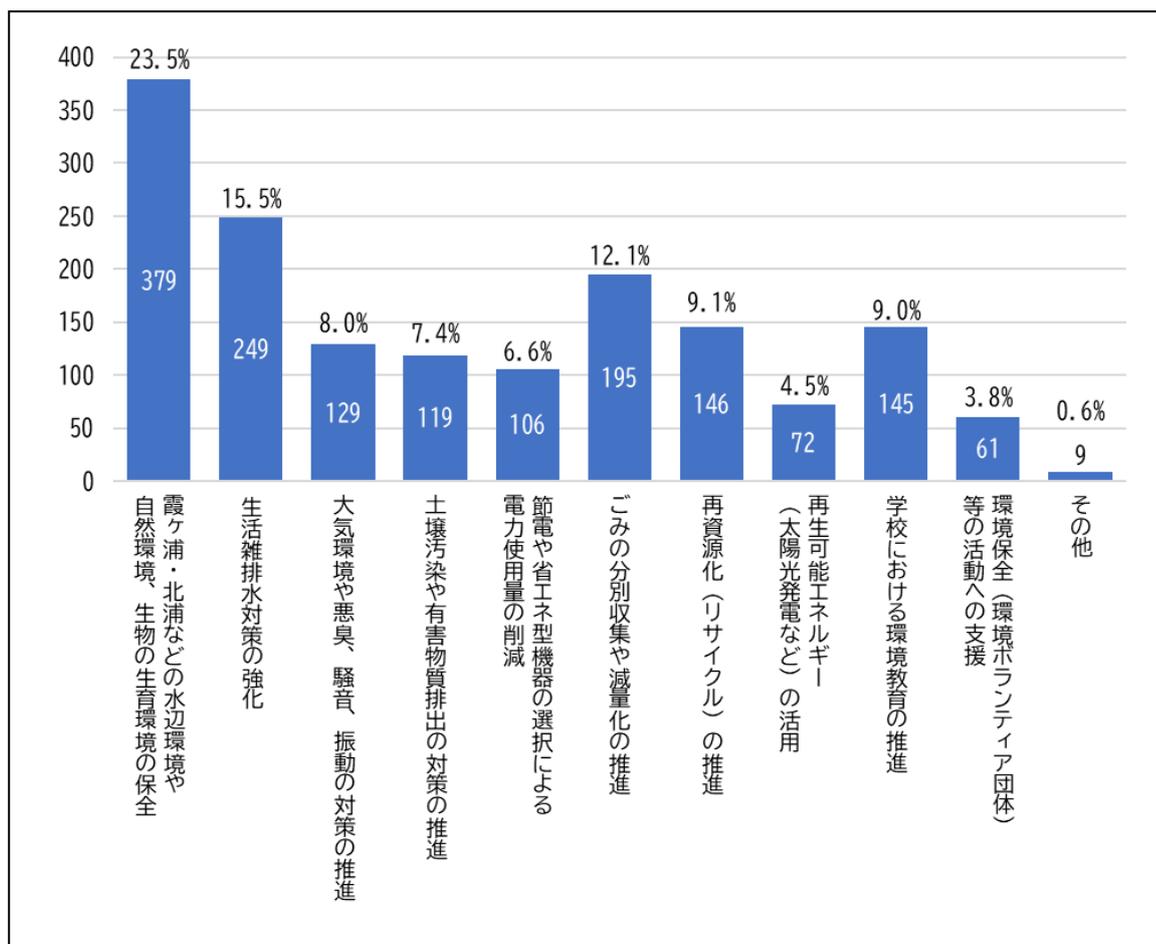
- 「時間がない」、「組織があるかわからない」、「人間関係がわずらわしい」の順に高い。
- 20歳代～40歳代と60歳代、80歳代は「時間がない」、50歳代は「組織がない」、70歳代は「組織があるかわからない」がそれぞれ最も高い。

問 22 暮らしの環境が良くなるための整備について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



- 「道路の維持・整備」、「通学路など安全に歩ける歩行空間の維持・整備」、「市民の憩いの場となる公園や緑地の維持・整備」の順に高い。
- 20歳代～40歳代は「通学路など安全に歩ける歩行空間の維持・整備」、50歳代～70歳代は「道路の維持・整備」、80歳代は「市民の憩いの場となる公園や緑地の維持・整備」が最も高い。
- 地区別も上位3位まで全体結果と同様である。それぞれ1位の「道路の維持・整備」は麻生地区37.2%、北浦地区33.3%であり、玉造地区の28.5%よりも高い割合を示している。
- その他の意見として複数見られた内容は、商業施設や企業を増やす、交通手段・公共機関の充実、救急医療体制の整備、野焼きに関する苦情やイノシシ対策を求める意見がある。

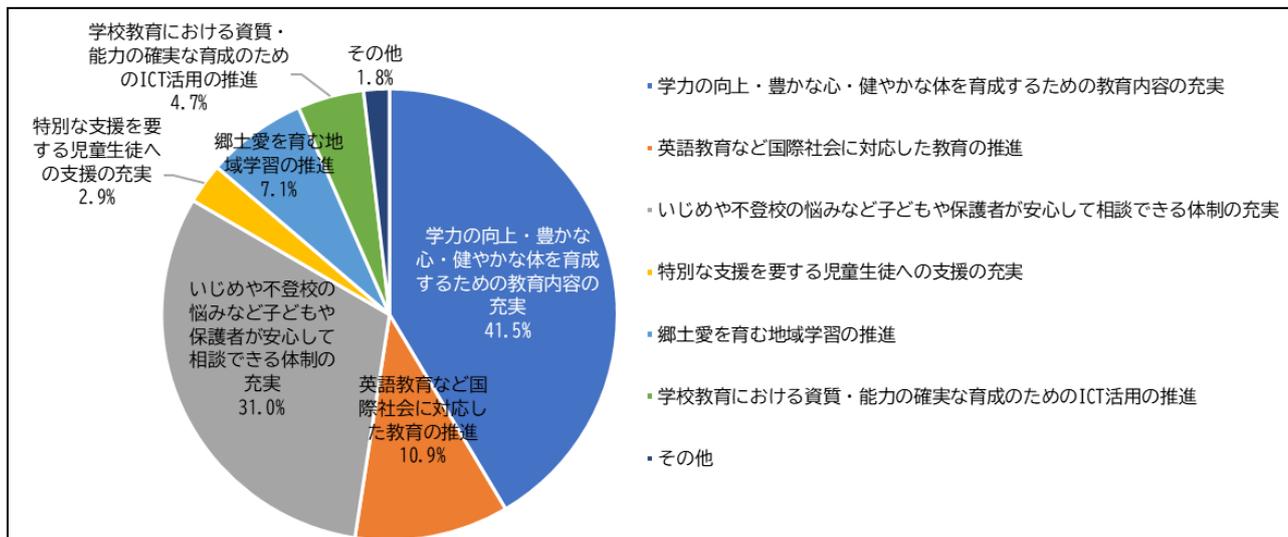
問 23 環境保全のために、最も重要なものを選んでください。(回答を3つまで)



○「霞ヶ浦・北浦などの水辺環境や自然環境、生物の生育環境の保全」が特に高く、次いで「生活雑排水対策の強化」、「ごみの分別収集や減量化の推進」の順に多い。

6. 教育・文化について

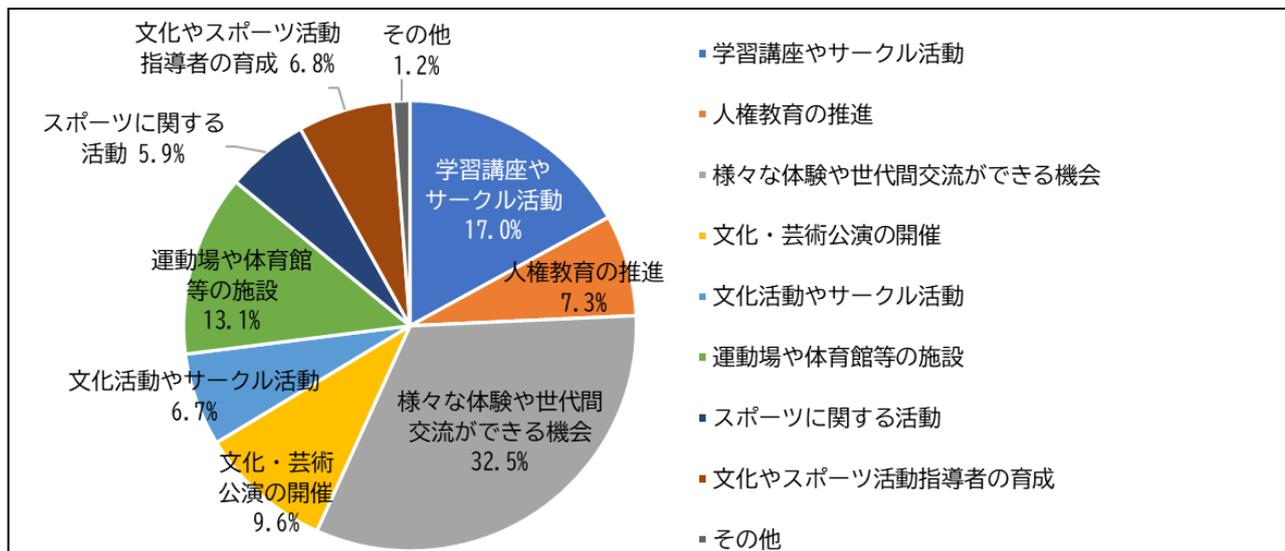
問 24 学校教育について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



○「学力の向上・豊かな心・健やかな体を育成するための教育内容の充実」と「いじめや不登校の悩みなど子どもや保護者が安心して相談できる体制の充実」が特に高く、この2項目で7割を占めている。次いで「英語教育など国際社会に対応した教育の推進」が高い。

○各年齢層とも、「学力の向上・豊かな心・健やかな体を育成するための教育内容の充実」と「いじめや不登校の悩みなど子どもや保護者が安心して相談できる体制の充実」が上位2位までに入る。

問 25 生涯学習・文化・スポーツ振興について最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



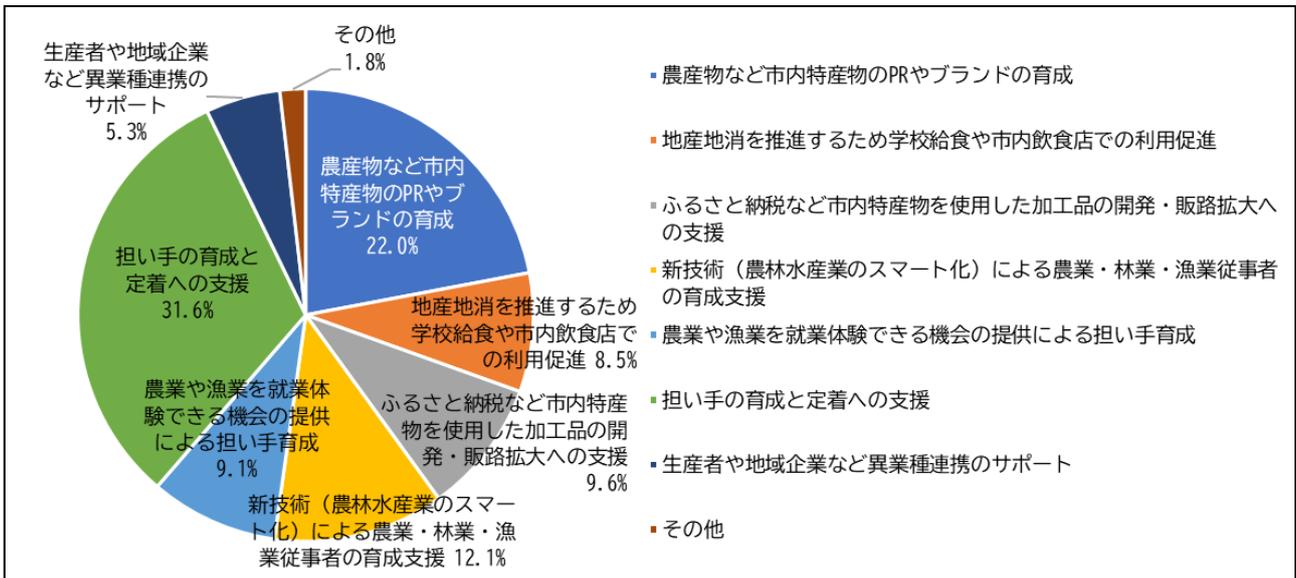
○「様々な体験や世代間交流ができる機会」が特に高い。次いで「学習講座やサークル活動」、「運動場や体育館等の施設」の順に高い。

○各年齢層とも、「様々な体験や世代間交流ができる機会」が最も高い。

○2位は20歳代～40歳代が「運動場や体育館等の施設」、50歳代～80歳代が「学習講座やサークル活動」である。

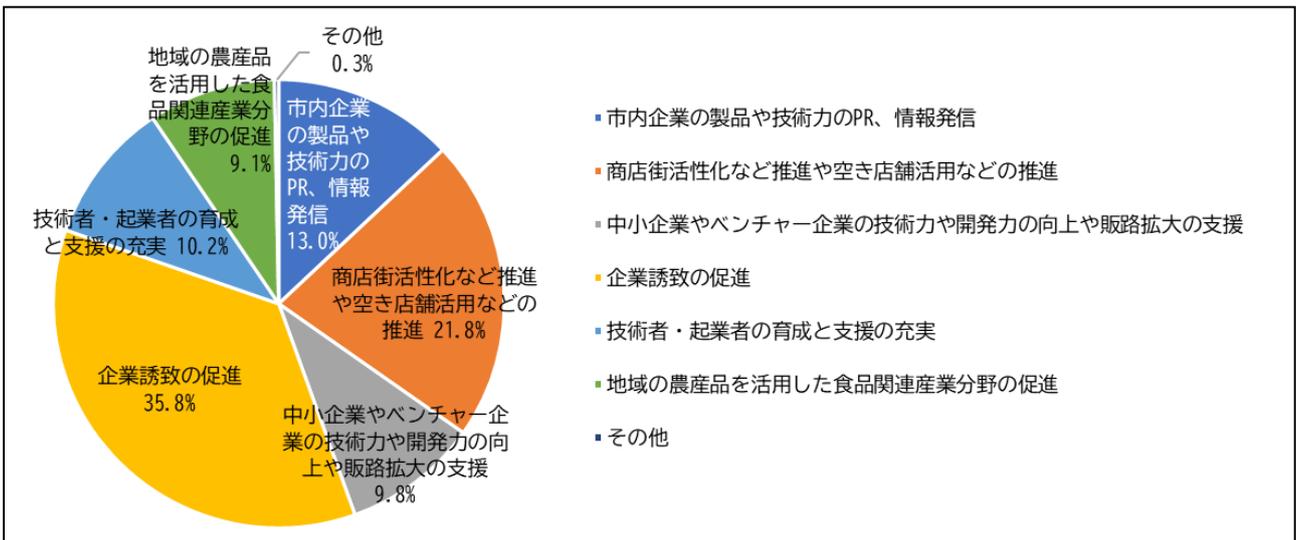
7. 産業について

問 26 農林水産業について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



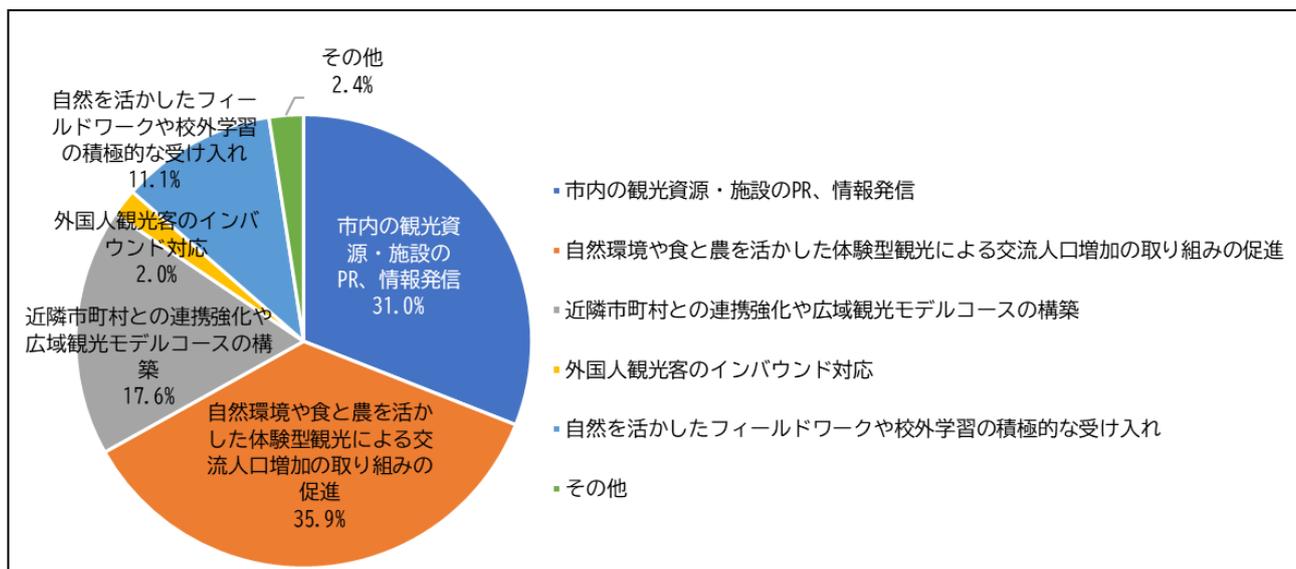
- 「担い手の育成と定着への支援」、「農産物など市内特産物のPRやブランドの育成」、「新技術（農林水産業のスマート化）による農業・林業・漁業従事者の育成支援」の順に高い。
- 職業別では、各職業とも1位は「担い手の育成と定着への支援」で、農林水産業では「新技術（農林水産業のスマート化）による農業・林業・漁業従事者の育成支援」も同率1位である。

問 27 商業・工業の振興について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



- 「企業誘致の促進」、「商店街活性化など推進や空き店舗活用などの推進」、「市内企業の製品や技術力のPR、情報発信」の順に高い。
- 地区別は3地区ともに全体と同様の傾向を示している。
- 職業別も全体と同様の傾向を示すが、自営業では、3位が「中小企業やベンチャー企業の技術力や開発力の向上や販路拡大の支援」、4位が「技術者・起業者の育成と支援の充実」である。

問 28 観光振興について、最も重要なものを選んでください。(回答を1つ)



○「自然環境や食と農を活かした体験型観光による交流人口増加の取り組みの促進」、「市内の観光資源・施設のPR、情報発信」がそれぞれ30%台特に高い。次いで「近隣市町村との連携強化や広域観光モデルコースの構築」が高い。

○地区別の上位2つを見ると項目は共通しているが、順位や割合に差がある。

麻生地区：全体と同様の傾向を示す

【1位】自然環境や食と農を活かした体験型観光による交流人口増加の取り組みの促進(33.7%)

【2位】市内の観光資源・施設のPR、情報発信(32.0%)

北浦地区：体験型観光による交流人口増加を重視する割合が特に高い

【1位】自然環境や食と農を活かした体験型観光による交流人口増加の取り組みの促進(41.7%)

【2位】市内の観光資源・施設のPR、情報発信(21.5%)

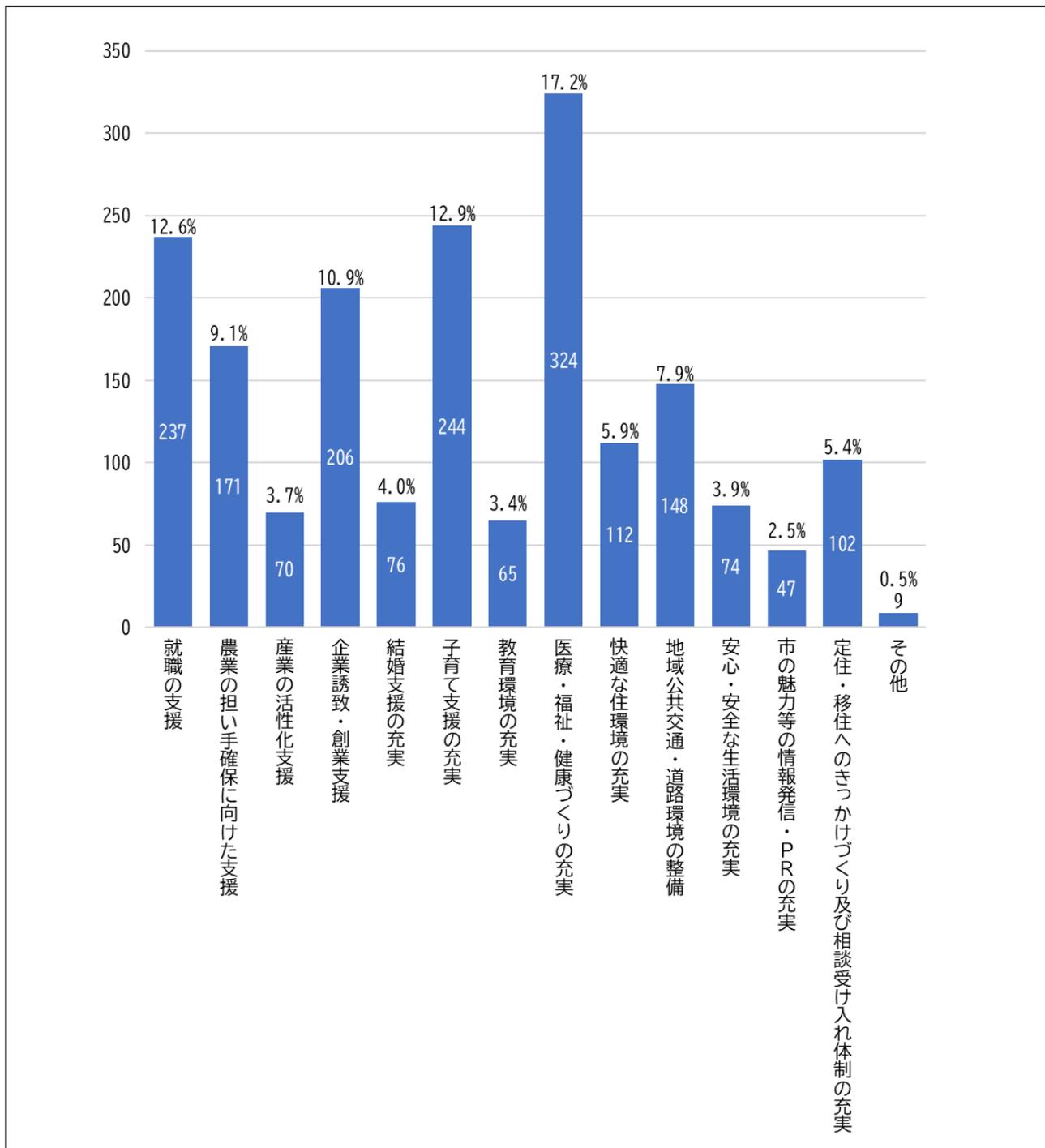
玉造地区：市内の観光資源・施設のPR、情報発信が最も高い

【1位】市内の観光資源・施設のPR、情報発信(35.9%)

【2位】自然環境や食と農を活かした体験型観光による交流人口増加の取り組みの促進(35.0%)

8. 定住・移住の促進について

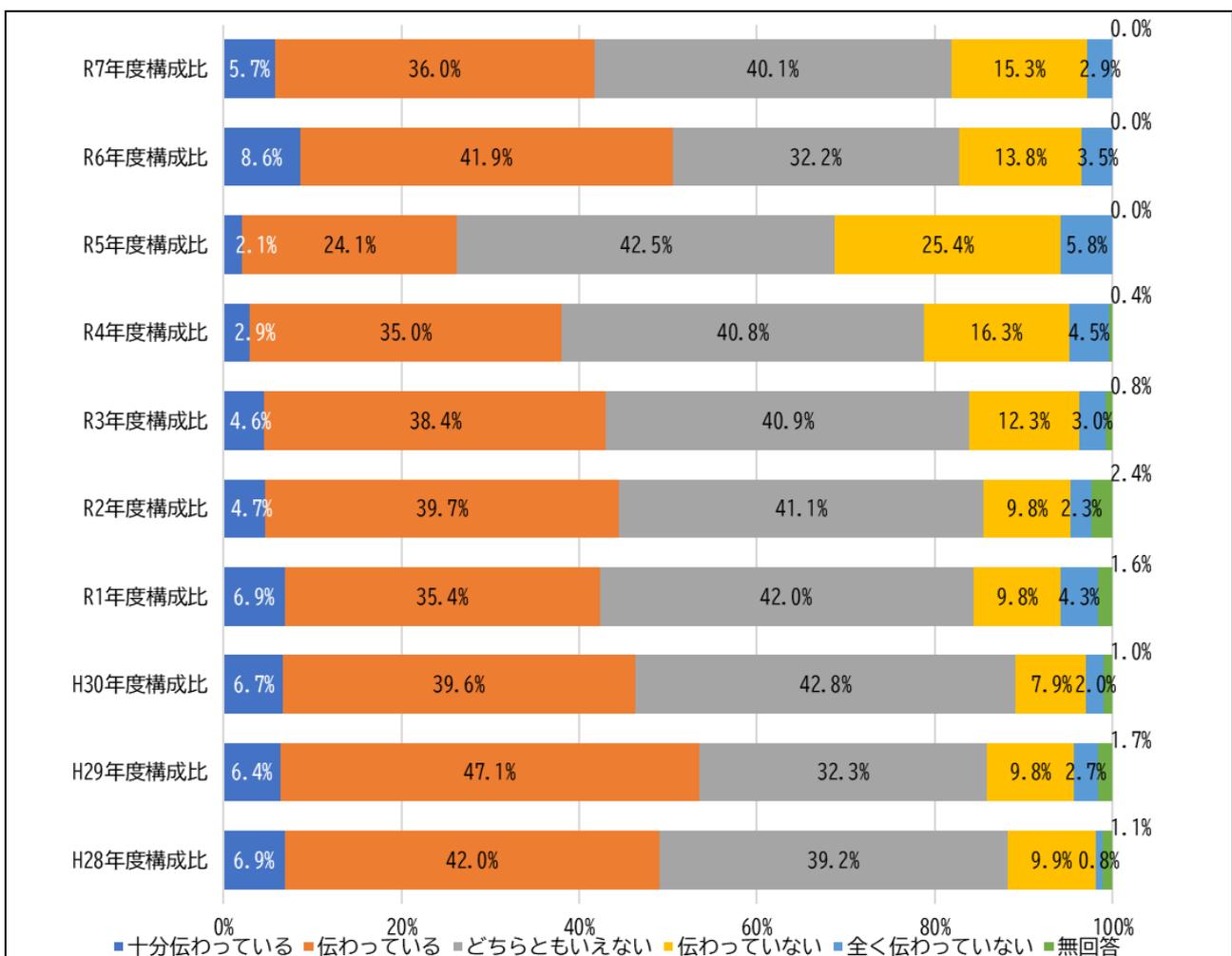
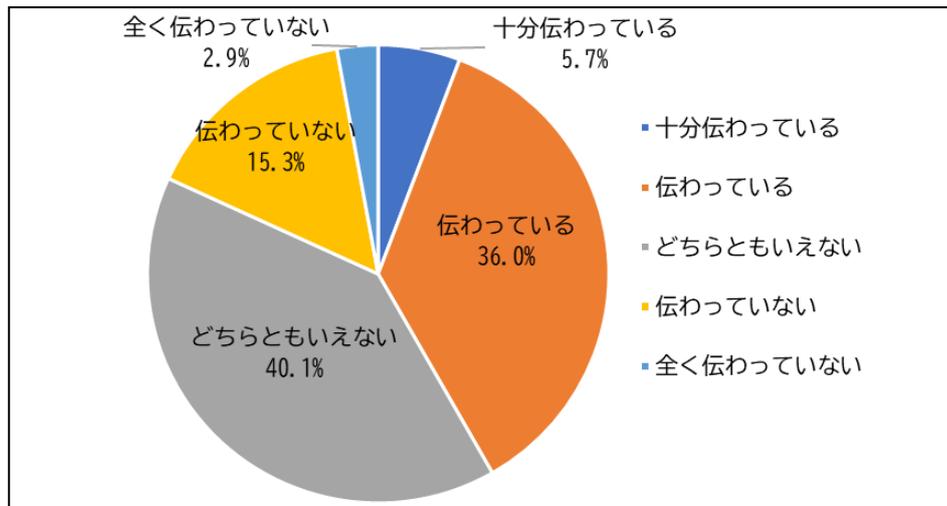
問 29 行方市への定住・移住の促進にどのような取り組みが効果的だと思いますか。(回答を3つまで)



- 「医療・福祉・健康づくりの充実」、「子育て支援の充実」、「就職の支援」の順に多い。
- 年齢別では、30歳代では「子育て支援の充実」、それ以外の年齢層では「医療・福祉・健康づくりの充実」が最多である。

9. 行政サービスについて

問 30 行方市からの情報が十分に伝わっていますか。(回答を1つ)

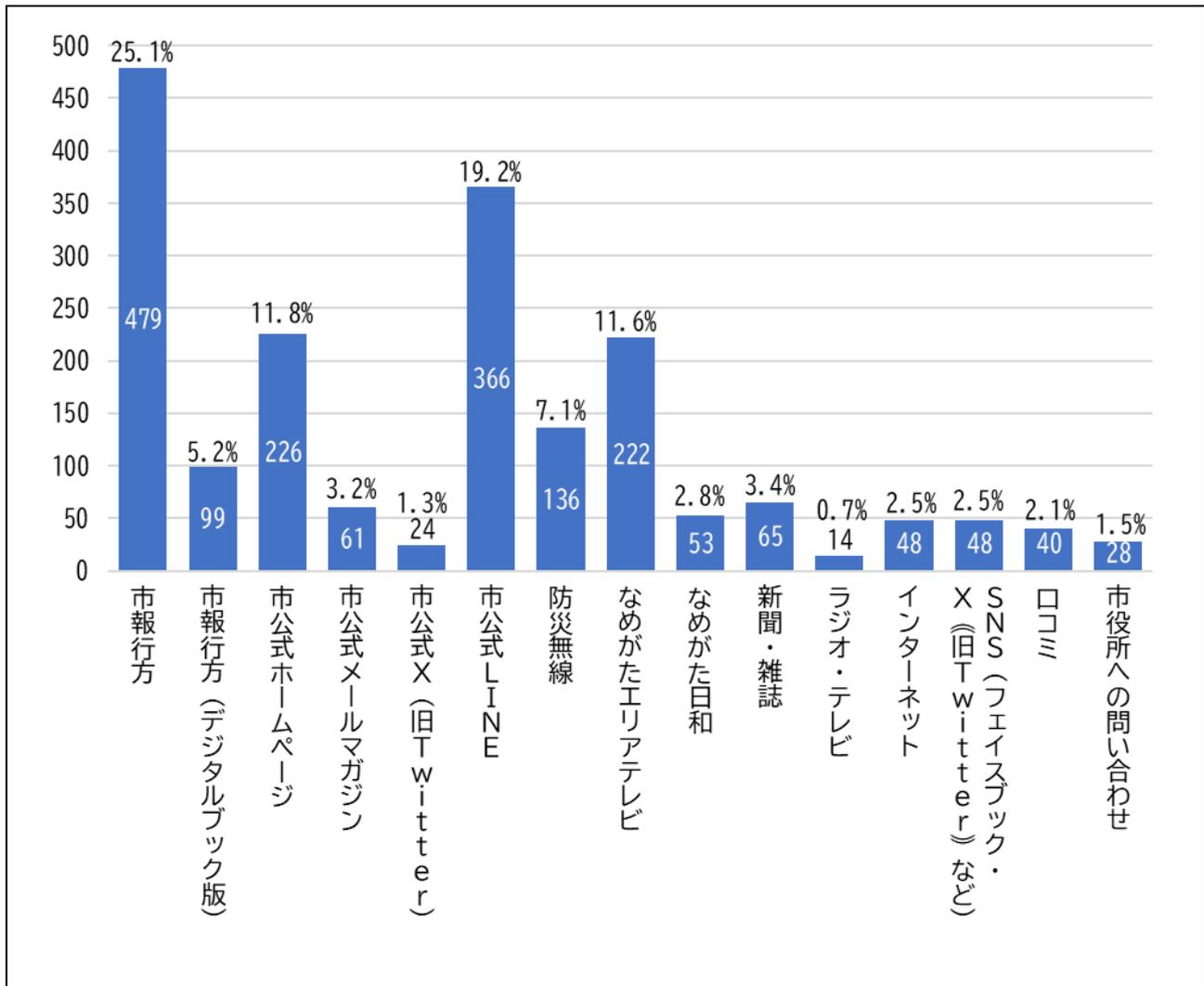


○「十分伝わっている」、「伝わっている」の合計は41.7%、「伝わっていない」、「全く伝わっていない」の合計は18.2%である。

○「十分伝わっている」と「伝わっている」の合計は前年より約9%減少した。

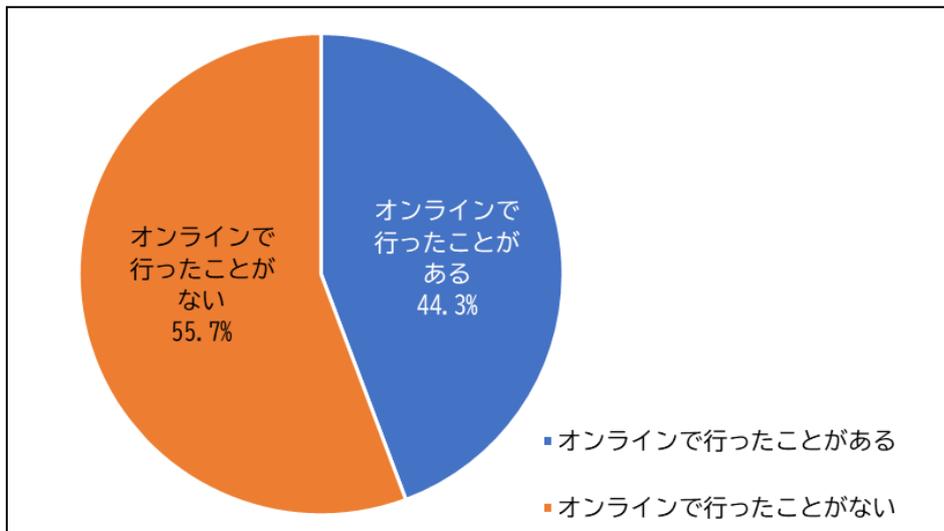
○年齢別では40歳代で「十分伝わっている」、「伝わっている」の合計が34.8%で40%を割る。

問 31 主にどのような方法で、市政や市・地域の情報を得ていますか。(複数回答)



- 「市報行方」、「市公式LINE」が特に高く、次いで「市公式ホームページ」が多い。
- 「市報行方」は40歳代以上の各年齢層で1位、20歳代と30歳代では2位である。
- 「市公式LINE」は20歳代と30歳代では1位で、年齢層が高くなるにつれ割合が減少する。
- 「市公式ホームページ」は60歳代以下の各年齢層で3位であるが、70歳代以上では割合が低い。
- 70歳代以上の各年齢層では、「なめがたエリアテレビ」が2位である。

問 32 行政手続きをオンラインで行ったことがありますか。(回答を1つ)



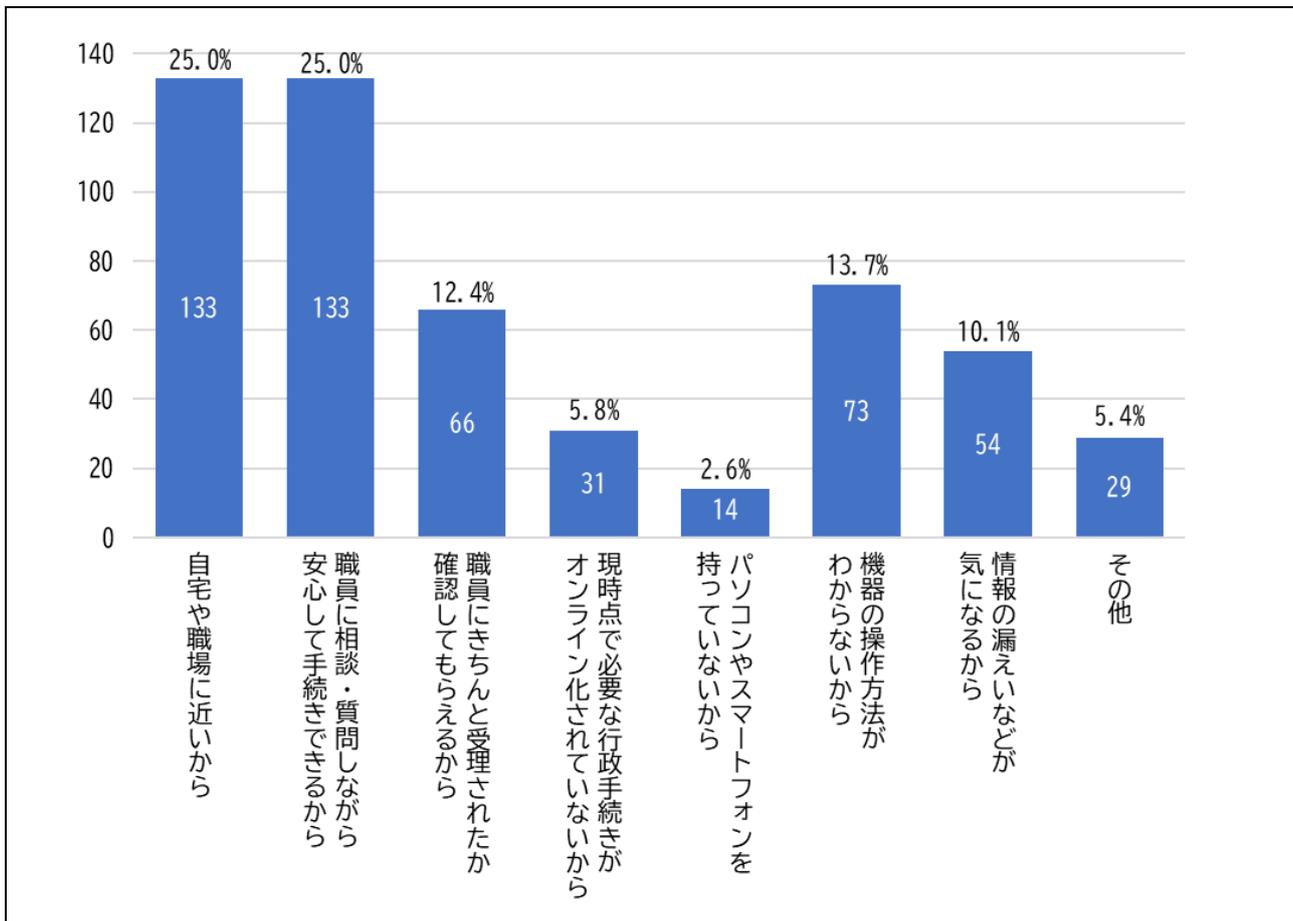
○オンラインで行政手続きを行ったことがあるは44.3%、ないは55.7%で、オンラインで行政手続きを行ったことが「ない」が「ある」を上回っている。

○40歳代のみ「ある」が「ない」を上回っており、利用率が高い。

○20歳代、30歳代、50歳代、60歳代は概ね全体と同様の傾向を示す。

○70歳代、80歳代は「ある」がそれぞれ29.5%、21.4%と低い傾向を示す。

問 33 オンラインで行政手続きを行ったことがない理由は何ですか。(複数回答) 【問 32 で『2』を選んだ方のみ回答】



- 「自宅や職場に近いから」と「職員に相談・質問しながら安心して手続きできるから」が同数とともに特に高い。次いで「機器の操作方法がわからないから」が多い。
- 「自宅や職場に近いから」は 50 歳代以下の各年齢層で 1 位であり、20 歳代では 51.9% と特に高く、年齢層が高くなるにつれて割合が低くなる傾向がある。
- 「職員に相談・質問しながら安心して手続きできるから」は、60 歳代と 70 歳代で 1 位であり、30 歳代、40 歳代、50 歳代では 2 位である。
- 「機器の操作方法がわからないから」は 60 歳代で 3 位、70 歳代で 2 位、80 歳代で 1 位である。
- その他の意見では、手続きの機会や必要がなかったためとの回答や、オンライン行政手続きを知らなかったとの回答が多くみられる。